日本王代一覧　六

リ伊5
1,088
6

日本王代一覽卷之六目錄

五九 後醍醐天皇 一葉 在位十三年 元應二。元亨三。正中一。嘉暦三。元徳一。元弘一。

六九 光嚴院 六葉 在位二年 正慶二。

後醍醐重祚 十一葉 建武三。

九七 光明院 十三葉 在位十二年 自建武四。暦應四。康永三。貞和四。

九八 崇光院 十九葉 在位三年 自貞和五。至觀應二。

九九 後光嚴院 廿二葉 在位二十年 文和四。延文五。康安一。貞治六。應安四。

門 リ伊5 號 1,088 巻 6

森鴻次郎氏寄贈 明治卌五年十一月廿七日

百　卅二葉　後圓融院　在位十一年　自應安五。永和四。康暦二。永德二。

一百一　卅九葉　後小松院　在位三十年　自永德二。至德三。嘉慶二。康應一。明德四。應永十九。

一百二　五十二葉　稱光院　在位十六年　自應永廿。正長一。

日本王代一覧巻之六

後醍醐天皇　九十五代

諱ハ尊治後宇多第二ノ子ナリ母ハ談天門院藤原忠子花山院内大臣師継ノ女實ハ参議忠継カ娘ナリ。天皇始ハ大宰帥ニ任スル故ニ帥宮ト申ス。花園院即位ノ時武家ノハカラヒニテ東宮ニ立ラル

文保二年二月即位。歳三十一。二條道平關白タリ後宇多法皇政務ヲ執行ル。鎌倉ノ将軍ハ守邦親王ナリ。執權ハ北條相模守高時ナリ　三月後二條院ノ子邦良ヲ東宮ニ立ラル　六月近衛左大臣經平薨ス　八月三條公茂内大臣ヲ辭ス。其父

前内大臣實重太政大臣ニ任ス。洞院前右大臣實泰左大臣ニ任ス。花山院大納言家定右大臣ニ任ス。一條大納言内經内大臣ニ任ス　十二月。關東ノハカラヒニテ。二條道平關白ヲ止テ。一条内經關白トナル。

元應元年正月。北條高時修理權太夫ニ任ス

四月。家定右大臣ヲ辞ス　六月。關白内經内大臣ヲ辞ス。大納言源有房内臣ニ任ス　七月。有房薨ス。九條大納言房實右大臣ニ任シ。大納言源通重内大臣ニ任ス　八月。西園寺前相國實兼カ娘禧子。中宮トナル。安野中將藤原公廉カ娘廉子。中宮ニ從テ入内ス。天皇此ヲ寵愛ス。三位局ト号ス。後ニ准后トナル。其外宮女多シ。腹々男女ノ皇子多シ

十月。二條實重太政大臣ヲ辞ス。前内大臣源通雄太政大臣ニ任ス。源通重内大臣ヲ辞ス。花山院師信内大臣ニ任ス

二年五月。六波羅ノ北條時敦死ス　七月。九條前攝政師教薨ス。歳四十八

元亨元年二月。今出河前右府藤原公顯薨ス

四月。後宇多法皇大覺寺ノ金堂ヲ建立ス

五月。大覺寺ニ行幸　六月。鎭西探題北條兼時死ス。

今歳。天皇撿非違使別當藤原經宣ニ命シテ。粟ヲ出シテ貧民ヲ賑ス。又洛中富ル人ノタクハヘタル米ヲヤスク賣シメテ飢ヲ救フ。自記錄所ヘ出テ。訟ヲ決斷ス　十一月。花山院内府師信薨ス　十二月。

北條高時其一族常葉駿河守範貞ヲ。六波羅ニ居シメ。北條英時ヲ鎮西ノ探題トス。此ノ比高時カ内管領長崎圓喜老耄ニヨリテ。其職ヲ嫡子高資ニ讓ル。高資驕テ高時ヲナヒカシロニシテ逆威ヲ振フ

二年正月法皇ヘ朝覲ノ行幸。管絃御遊アリ

五月奥州安藤五郎。及又太郎。争論ノ事アリ。長崎高資賄ヲ兩方ヨリ取テ。私アルニヨリテ。安藤謀叛ス。又同比攝州ノ渡邊紀伊ノ安田大和ノ越智ナト云者武家ヲソムケリ。承久ヨリ以後百年アマリ。北條家ノ下知ヲソムクヿ。安藤等ヨリ始ル。天皇本ヨリ武家ノホロヒン事ナルヿヲ憤ル。高時カ酒色ニ耽リ。高資カ逆威皆人望ニ背ト聞テ。密ニ近臣等ト。鎌倉ヲ亡サント謀ル　六月。大納言藤原冬氏内大臣トナル

同月。天皇諸臣ヲ召テ。五經三史ノ論議アリ。此比後宇多法皇大納言藤原定房ヲ關東ヘ遣サレ。政ヲ當今ニ任セラレ。閑居セント仰セラル。武家別義ナキニヨリテ。大覺寺ヘ隱居セラル　八月。左大臣實泰内大臣冬氏官ヲ辭ス。九條右府房實左ニ轉シ。今出河大納言藤原兼季右府ニ轉ス。鷹司大納言冬教内府ニ任ス。兼季ハ西園寺實兼カ末子ナリ。其庭ニ菊アル故ニ。菊庭ト号ス。後ニ改テ菊亭ト云ト申シ傳タリ　同月東福寺ノ師鍊。元亨釋書ヲ奉ル。師鍊ヲ虎關ト號ス　九月。西園寺前相國實兼薨ス。歳七十四

三年三月。一條内經関白ヲ辞ス。九條房實関白ト
ナル。　五月。源通雄太政大臣ヲ辞ス。鷹司前関白
冬平大臣ニ再任
正中元年正月。三條前内府公茂薨ス。歳四十一　三
月。石清水行幸　四月。賀茂行幸。　同月。鷹司内府
冬教左大臣トナル。近衛大納言經忠右大臣トナル。
西園寺大納言實衡内大臣ニ任ス　五月。近衛前関
白家平薨ス　六月。後宇多法皇崩ス。歳五十八
八月。北條惟貞。六波羅ヨリ鎌倉ヘ帰ル
九月。土岐頼貞。多治見國長等天皇ノ密詔ヲ受テ。
鎌倉ヲ亡サントスルノ謀顕ケレハ。六波羅ノ範貞軍
兵ヲ遣シテ。頼貞國長ヲ討殺ス

二年五月。日野中納言資朝日野右少辨俊基召捕シ
テ。鎌倉ニ赴ク。此両人ハ天皇ノ近臣ニテ。関東ヲ亡サ
ントスル謀ヲ乄ル故ナリ　七月。萬里小路大納言宣
房ヲ鎌倉ヘ遣サル。告文ヲ高時ニ給リ謝セラル。此ニ
ヨリテ資朝ハ佐渡ヘ流サレ。俊基ハ赦サレテ帰京。朝廷
無事ナリ　八月。禅僧疎石ヲ南禅寺ノ住持トス。
天皇此ヨリ禅法ニカタムケリ　十月。前将軍惟康
親王薨ス。歳六十二　十二月。一條前関白内經薨
ス。歳三十六。芬陀利華院ト号ス
嘉暦元年三月。東宮邦良薨ス。歳二十四。　同月。北條
高時病氣ニヨリテ剃髪。崇鑑ト号ス。歳二十四。其弟
左近大夫泰家ニ執権ヲ譲リ。金澤貞顕ト。連署セ

シメントス。長崎高資同心セズ泰家怒テ剃髪シ恵
性ト号ス。貞顕モ剃髪ス。北條守時北條維貞連署
執権シケレトモ高時ガ旨ヲ受テ執行ヘリ
七月後伏見上皇ノ子量仁ヲ東宮ニ立ラル天皇御
子多シトイヘトモ東宮立坊ハ関東ヨリノハカラヒナレ
バ御心ニ任セズ　九月金澤貞将上洛ス六波羅ニ居ル
シバラクアリテ鎌倉ヘ帰ル　十一月西園寺内府
實衡薨ス大納言藤原基嗣内大臣ニ任ス
二年正月鷹司関白冬平薨ス歳五十五　同月ニ禅僧
正澄元朝ヨリ来朝ス鎌倉ノ建長寺ニ住持ス正澄ハ清
拙ナリ　二月ニ二條道平関白ニ再任ス　三月九
條ノ房實薨ス歳三十八　十月北條維貞死ス

三年十月前将軍久明親王薨ス歳五十五
十二月天皇ノ子尊雲法親王ヲ天台座主トス此
法親王武勇ヲ好テ密ニ鎌倉ヲ討ベキ志アリ大
塔宮是ナリ
元徳元年六月三條前相国實重薨ス歳七十一
十二月久我前相国源通雄薨ス歳七十三
二年正月二條道平関白ヲ辞ス近衛右府経忠関
白トナル　二月内大臣基嗣右府ニ任シ久我大納
言源長通内大臣トナル　三月長通辞退洞院大
納言公賢内府ニ任ス　同月東大寺興福寺延暦
寺行幸ス密ニ彼僧徒等ヲ語ヒ武家ヲ討ント謀ル尊
雲法親王其張本タリ　五月僧円観文観忠円等

召捕ラレテ鎌倉ヘ下向ス此等勅ヲ承テ武家ヲ調伏スル故ナリ皆遠流セラル日野資朝ハ佐渡ノ配所ニ居ケルヲ本間ト云ヘル武士高時ガ命ヲ受テ是ヲ殺ス資朝ガ子阿新ト云ル童本間ヲ殺ノ父ノ仇ヲムクユ　六月北條茂時執權ニ補セラル煕時ガ子也　七月日野俊基再鎌倉ヘ召寄ラレテ殺サル資朝俊基兩人殊ニ密謀ノ事ニアヅカル故ナリ

八月近衛經忠關白ヲ辞ス鷹司ノ冬教關白タリ

九月長崎高資逆威ヲ振ヿ甚ニヨリテ高時密ニ高資ガ一族高頼ニ命メ高資ヲ殺サントス事顯ケレバ高頼カヘツテ奥州ヘ流サレテ高資弥驕ル鎌倉ノ政衰テ人ミナソムク此ヲ聞テ主上又鎌倉ヲハカル志アリ

元弘元年二月右大臣藤原基嗣左大臣トナル久我長通右太臣トナル西園寺季衡内府トナル

三月北山行幸花見ノ御遊アリ　八月關東ノ使節兩人上洛ス主上及尊雲法親王ヲ流サン爲ナリ主上惧テ密ニ笠置山ニ行幸萬里小路中納言藤房其弟季房等供奉ス花山院大納言師賢ハ伴テ天子ノマネシテ叡山ニ登テ兵ヲ聚ム六波羅ヨリ兵ヲ遣シテ叡山ヲ攻ム此間ニ主上ハ笠置ヘ入給フ師賢モ笠置ヘ参ル主上河内國ノ武士楠正成ヲ召テ軍事ヲ任セラル正成河内ヘ帰テ義兵ヲアゲテ赤坂山ニ籠ル　九月關東ノ大軍笠置ヲ攻破ル主上山ヲ

出テ逃給フ。路次ニテトラハレテ六波羅ヘ入タテマツル。
又軍兵ヲ發シテ赤坂城ヲ攻。正成シバラク拒テ後密
ニ城ヲ出テ金剛山ヘ隱ル。尊雲ハ十津河ノ邊ニ隱。藤
房季房等ノ近臣皆囚ラル。二ノ宮尊良以下ノ皇子
モ皆生捕トナル。此代年号元應二年　元亨三年
正中二年　嘉暦三年　元徳二年　元弘一年。
合テ在位十三年

九十六代

光嚴院　諱ハ量仁。後伏見院第一ノ子ナリ。母ハ廣
義門院西園寺左大臣公衡ノ娘ナリ。後醍醐即位
ノ時高時ガハカラヒニテ東宮ニ立ラル
元弘元年十月後醍醐笠置ヨリ六波羅ヘ入給フ時
武家ノハカラヒニテ西園寺大納言公宗ニ談ジテ量仁即位サセ
ラル。後二條院ノ孫邦良ノ子康仁ヲ東宮トス
正慶元年三月常葉範貞六波羅ノ職ヲ辞ス。北條
越後守仲時北條左近將監時益両六波羅ニ補セラ
レテ上洛ス。仲時ハ北ノ方ニアリ時益ハ南ノ方ニアリ。
範貞鎌倉ヘ帰ル　同月高時ガ使者長井高冬上洛
シ。両六波羅相談ニテ先帝後醍醐隱岐國ヘ流サレ
給フ。一ノ宮尊良親王ハ土佐ヘ流サル。妙法院尊澄法親王
ハ讃岐ヘ流サル。尊雲ハアナタコナタ隱レ還俗シ。名ヲ護
良ト改テ吉野ノ城ニ籠ル　四月。楠正成又赤坂城
ヲ攻取ル　五月。先帝ノ近臣或殺サレ或ハ流サ
ル　同月正成天王寺邊ニ出張ス。六波羅ヨリ隅田

高橋等ヲ遣シ討シム敗軍シテ帰ル　七月宇都
宮公綱六波羅ノ旨ヲ受テ正成ト合戦
八月赤松圓心播州苔縄城ヲ構テ先帝ノ御方ト
ナル正成千劒破城ヲ築テ楯籠ル　九月高時其
一族大佛貞直阿曽時治并ニ二階堂道蘊等ヲ大将
ニテ大軍ヲモヨヲシテ上洛セシム　十月大納言源
通顕内大臣ニ任セラル　十一月今出河右大臣
兼季太政大臣ニ任ス
二年正月関東ノ大勢相分テ護良皇子ノ籠レル
吉野城正成ガ籠レル千劒破城并ニ正成ガ家人ノ
籠ル赤坂城ヲ攻ム　二月赤坂城攻落サル其次ニ
吉野城攻落サル護良アヤウカリシガ村上義光并
ニ其子義隆フセイテ討死シケルニ護良免テ深
山ニ隠ル其後諸方ノ軍兵皆千劒破城ヲ取巻テ
攻ム數十萬ニ及ベリ正成様々ノ奇計ヲ運シテフセ
グ故寄手多ク討タル新田義貞モ此寄手ノ内ニ加
テアリシガ密ニ護良ト通ジテ上野國ニ帰テ義兵
ヲ起サントス　同月赤松圓心摂州摩耶城ヘ出張シ伊豫國ニテ土
居得能等義兵ヲ起ス　三月赤松圓心京ヘ攻上ル此ニヨリテ
新帝六波羅ヘ行幸両六波羅屡赤松ト合戦此比筑紫ニ
テ菊池寂阿少貳妙恵大友具簡相謀テ探題北條
英時ヲ攻ントスル所ニ二人却テ英時ヲ救故菊池討
レヌ　同月先帝後醍醐密ニ隠岐國ヲ
遁出テ伯耆國ヘ赴テ名和長年ヲ頼テ船上山ヘ入

給フ。山陽山陰國々ノ武士多ク来テ從フ
同月叡山ノ衆徒護良ノ旨ニ應シテ兵ヲ起シテ京ヘ攻入ル。六波羅ノ武士ト合戰。山徒敗軍。先帝船上ヨリ。千種中將忠顯ニ軍勢ヲ添テ京ヲ攻シム。六波羅ト合戰。忠顯軍利アラズ　同月高時其一族名越尾張守高家ヲ大將トシ。足利治部大輔高氏ヲ副將トシテ上洛セシム。長崎圓喜高氏ヲ疑ケレバ。高氏其弟直義ガ謀ヲ用テ。誓辭ヲ書テ示スニヨリテ。高時疑ハズ。上洛ノ後高家ハ赤松ト戰テ討死ス。又高氏ハ。先帝御方トナリテ。赤松等ト心ヲ合ス。高氏シバラク京ヲ避テ丹波ヘ赴ク。近國ノ武士從フ者多シ。即其勢ヲ帥ヒ　五月七日。忠顯。赤松并ニ護良ノ候人法印良忠等ト牒シ合テ。六波羅ヲ攻破ル。八日兩六波羅仲時時益。新帝并ニ後伏見上皇花園上皇ヲ具シ奉リ。京ヲ出テ關東ヘ赴ク。時益ハ流矢ニ中テ死ス。江州番馬ニ至ル時。敵已ニ道ヲ遮ニヨリテ。仲時已下從類皆自害ス。新帝并ニ兩上皇皆因テ京ヘ帰ル。千劔破寄手モ退テ南都ヘ落行
同月八日。新田義貞。上野國ニテ義兵ヲ起シテ鎌倉ヲ攻。高時ガ弟恵性等ヲシテフセガシム。武藏國ニテ數度合戰。関東ノ軍勢。皆高時ヲ背キケレバ。恵性遂ニ敗テ鎌倉ヘ帰ル。義貞ツヾイテ鎌倉ヘ攻入。北條守時北條基時自害。守時ハ長時ガ孫ニテ赤橋ト号ス。高氏ノ妻ハ守時ガ妹ナリ。基時ハ六波羅ノ仲

時ガ父ナリ。大佛貞直。金澤貞將等所々ニテ討死ス。
長崎高重ハ圓喜ガ孫ナリ。スグレタル勇士ニテ。度々戰
カツキテノ自害。高時モ東勝寺ニテ自害。二十二日
也。北條茂時ハ執權當職ナルニヨリテ。鎌倉ノ殿中
ニテ自害。金澤貞顯入道。常葉範貞等ノ一族。城圓明。
長崎圓喜等ノ家人皆自害。同日將軍守邦剃髮。年
三十三 同七月卒ス 高時ガ嫡子邦時ハ執ハレテ殺サル。
二男時行ハ。信濃ヘ落行。惠性ハ奥州ヘ落行
同月。筑紫ニ軍起テ。探題英時モ。少貳大友ニ討レヌ。
長門ノ探題。北條時直ハ降參シヌ。其外國々ニ居ケル
北條ノ一族。或討レ。或遁隱テ二トセ。高時ハ九歲ニテ
家ヲ繼。十四歲ニテ執權當職十一年ニテ剃髮ス。其
後七年ヲ歷テ滅ブ。歲三十一也。治承四年。頼朝公
倉ニ入シヨリ今年マテ。將軍九代。北條執權八代。合
テ百五十四年也。此帝在位絕ニ二年。年号正慶

後醍醐 重祚 正慶二年五月。六波羅攻落サレ
ヌル趣。高氏并ニ忠顯圓心等。船ノ上ヘ注進シケレバ後
醍醐即チ入洛シ給。播州書寫山ニテ。義貞ヨリ高時
滅亡ノ事ヲ注進ス。楠正成兵庫ニテ迎タテマツル。
六月京著シタマフ。高氏鎭守府將軍ニ補シ。治部卿
ニ任シ。從四位下ニ叙ス。直義左馬頭ニ任ス。高氏ハ源
義家ヨリ八代。足利左馬頭義氏ガ六代ノ孫ニテ。
清和源氏ノ最ナレドモ。累世北條ト內緣ヲ結デ
相親シキ故。所領モ多カリキ。義貞ハ此モ義家ヨリハ

十代ノ新田義重カ七代ノ後ナリ。シカレドモ北條ニ號セラレケル故。其家微々ナリシガ今ノ度勢ニ乗シテ。大功ヲ立タリ　主上既ニ重祚アリテ。鷹司冬教關白ヲ止ラレ。今出河兼季太政大臣ヲ止ラレテ。前右大臣ニトサル。其外解官ノ者多シ。右大臣季衡内大臣源通顕等剃髪スル者モアリ。二條道平左大臣ニ再任シ。藤氏長者トナル。諸事ヲ掌シム。但關白職ヲハヲカレズ。主上自ラキコシメスベキユヘナルベシ。久我長通右大臣ニ再任シ。洞院公賢内大臣ニ再任ス。元弘ノ乱ニ流サレシ輩皆歸京　同月。護良皇子征夷大將軍ニ任セラレ入洛ス。高氏カ人望アリテ。遂ニハ朝敵トナルベキ勢アルヲ知テ。急ニ殺サントス。主上

許容セズ。高氏惧テ。護良ノ繼母准后藤廉子ニ賂テ難ヲ免ル　七月。千劔破寄手ノ大將數輩降參ス皆誅セラル　八月。高氏從三位ニ叙シ。武藏ノ守ニ任ズ尊ノ字ヲ賜テ。高氏ヲ改テ尊氏ト号ス。主上既ニ公家一統ノ政ヲ施サル。准后廉子等。内寵ノ申スニヨリテ。賞罰正シカラズ。天下却テ武家ヲ慕フ。中納言藤房ヨリ〻諫レドモ許容ナシ　十月。北畠參議源顯家陸奥ノ國司ニ任シ下向ス。出羽陸奥兩國皆從ス

建武元年正月。尊氏正三位ニ叙セラル　同月。大内裏造營ノ事始ナリ　二月。源長通右大臣ヲ辭ス。近衛經忠右府ニ再任ス　同年春。尊氏ニ武藏

常陸下総ヲ賜ル。義貞ニ。上野播磨ヲ賜ル。直義ニ
遠江ヲ賜ル。義貞弟脇屋義助ニ。駿河ヲ賜フ。嫡子
義顕ニ越後ヲ賜フ。正成ニ。攝津河内。長年ニ因幡
伯耆ヲ賜フ。其餘ノ恩賞猶多シ。赤松圓心。獨賞ヲ
賜ラス。コレニヨリテ朝家ヲ怨奉ル　五月護良親
王關東ヘ流罪。直義此ヲ預テ。鎌倉ニ二階堂ノ獄ノ
中ニ捕フ。継母准后。尊氏兄弟ニ頼シ。讒言セルユヘ
ナリ。護良近臣法印良忠等殺サル。主上ノ八ノ宮成
良親王ヲ征夷大將軍トシ。直義ヲ執權トシテ。
相模守ニ任ゼラレ。鎌倉ニ居ラシム　七月。紫宸殿
上ニ怪鳥鳴ワタル。隠岐廣有此ヲ射ル
九月洞院公賢内大臣ヲ辞ス。吉田大納言定房内

大臣ニ任ス。尊氏參議ニ任ス　十月。鷹司前左大
臣冬教。改テ右大臣ニ任ス
二年二月。二條左府道平薨ス。歳四十九。鷹司右府
冬教左府ニ任ス。洞院前内府公賢右府ニ任ス。吉田
定房内府ヲ辞ス。一條大納言經通内府ニ任ス。出雲
ノ國ヨリ龍馬進覧　三月。中納言藤房遁世
西園寺大納言公宗。北條高時ガ弟恵性ト。謀叛ヲ企ツ。
恵性還俗シテ。時興ト称ス。高時ガ子時行ハ。関東
ニ起リ。其一族名越時兼ハ。北国ニ起ル。事アラハレテ。
公宗ハ誅セラル　七月。時行信濃ヨリ起テ鎌倉
ニ攻ム。直義成良親王ヲ具シ奉テ。鎌倉ヲ出。此時使
ヲ遣シテ。護良親王ヲ弑ス。尊氏勅命ヲ奉リ。時行

追討ノ為ニ東國ヘ趣ク。或説ニハ。此時尊ノ字ヲ賜ル
トイヘリ。尊氏遠江ニテ直義ガ上ルニ逢テ。同道シ。
鎌倉ヘ赴ク　八月。遠江駿河伊豆相摸ノ間ニテ。千餘
度戦テ。時行破レテ行方シレラス。時兼ハ北國ニテ亡ス。コ
レヨリ関東ノ武士。皆尊氏ニ屬ス。尊氏自ラ征夷
大將軍ト称ス。年来新田義貞ト功ヲ争テ不和ナ
ルユヘ。義貞ヲ誅シント奏ス。義貞。又尊氏ガ逆心アルコ
トヲ奏ス。此時直義恣ニ護良ヲ殺スコトアラハレシカ
バ。主上逆鱗アリテ。義貞ヲシテ。尊氏ヲ誅シム
十一月鷹司冬教左府ヲ辞ス。近衛右府経忠左府
ニ任ス　同月義貞都ヲ出テ東征ス。一ノ宮尊良親王
東国ノ管領ニ任セラレテ同ク下向セラル。参州矢矧
驛。駿河手越ニテ。直義ト戦テ。義貞毎度利ヲ得ク
リ　十二月箱根竹下ノ合戦ニハ。尊氏直義出陣シ。
官軍討負テ。尊良義貞帰洛セシカハ。関東ハ申ニ及バ
ズ。北國西國南海處々ノ武士尊氏ニ應ズルモノ多シ
延元元年正月。尊氏直義。大軍ニテ上洛。義貞。義助。
正成。長年等。大渡山崎。宇治勢多ニテ防トイヘトモ。
大敵勢ヒ強キニヨリテ。義貞敗軍帰洛シ。主上叡
山ヘ臨幸。尊氏入洛シ。内裏京中炎上。細川定禅ヲ
三井寺ヘ遣シ。叡山ヲ攻ントス　同月。奥州國司北
畠参議源顕家。兵ヲ率ヒテ叡山ニ到ル。義貞顕家正
成等三井寺ヲ攻破ル。定禅帰洛。義貞等ノ官軍両
三度都ヘ攻入ル。毎度利ヲ得テ。尊氏京都ヲ落ケレバ

二月主上叡山ヨリ還幸此度モ正成様〻ノ奇計ヲ
廻シテ功ヲ立タリ　同月義貞顕家正成等尊氏
ヲ追懸摂州豊嶋ニテ合戦尊氏討負テ筑紫ヘ落
行義貞帰洛左中将ニ任セラル菊池武俊九州ノ勢
ヲ催シ尊氏ヲ攻ント筑前多々良濱ニテ合戦菊池討
負テ九州尊氏ニ属ス此時義貞勾当内侍トイヘル
美女ニ惑テ西国下向延引ノ内ニ赤松圓心ヲ初マ
西国ノ兵皆尊氏ニナビケリ　三月顕家中納言
ニ昇進シ鎮守府将軍ニ任セラレ再奥州ヘ下向ス義
貞ハ山陽山陰十六ケ国ノ官領ヲユルサレ西国ヘ下向
先播州ノ赤松カ城ヲ攻ム　四月後伏見院崩ス
年四十九此院崩御以前ニ密ニ尊氏ニ院宣ヲ賜ル

同月尊氏直義大軍ヲ率テ筑紫ヲ出　五月義貞
退テ兵庫ニ陣ス正成ニ勅シテ義貞ヲ救ハシム正成
籌策ヲ献ストイヘトモ御許容ナキニヨリ兵庫ヘ赴
キ義貞ニ加リ尊氏ト合戦正成ハ湊川ニテ討死ス
義貞ハ敗北シテ帰洛主上又叡山ヘ臨幸尊氏入
洛花園上皇ヲ東寺ヘ請シテ持明院方ノ皇統ヲ立
ントス　六月尊氏高師重等ヲ遣シテ叡山ヲ攻シム
寄手ノ討負テ師重生虜トナル　七月義貞数度出
京合戦ストイヘトモ毎度官軍利アラズ那和長年
討死ス義貞自ラ東寺ヘ押寄尊氏ト独身ニテ勝
負ヲ決セントス尊氏従ハズ義貞怒テ山ヘ帰ル
八月光厳上皇ノ弟豊仁尊氏ノハカラヒニテ京都ニ

テ即位建武ノ年號ヲ用ユ。近衛左府經忠關白トナル
十月主上　後醍醐　東宮恒良親王ヲ義貞ニ附託シ
北國ヘ赴カシム。主上ハ尊氏ニアザムカレ都ヘ出タマヒケ
ルヲ。花山院ニ押籠奉ル。足利高經高師泰等ヲ北
國ヘ遣シテ義貞ガ籠レル越前金崎ノ城ヲ攻シム
十一月尊氏大納言ニ任ス。建武式目十七ケ條ヲ定
ム。天下又武家ノ代トナレリ　十二月主上　後醍醐
潜ニ都ヲ逃出テ。吉野ヘ遷幸。楠木正成ガ子正行
參テ守護シ奉ル。舊臣等来従ヒ奉ル。或説ニ公吉野
臨幸ス。今年八月ノコトナリトモイヘリ。コレヨリ吉野
ヲバ南朝ト号シテ。帝王二人マシマス

九十七代

光明院

諱ハ豊仁。後伏見ノ第四ノ子ナリ
建武三年八月尊氏ノハカラヒニテ即位ス。此時花園
ヲバ本院ト称シ。光嚴院ヲバ新院ト称ス。
建武四年　南朝後醍醐延元二年　三月尊氏ノ諸將軍。金崎ノ城
ヲ攻落ス。義貞義助潜ニ瓜生カ杣山ノ城ニカクル。
義貞カ嫡男義顯自害ス。尊良親王モ自害シタマフ。春
宮恒良親王ハ京ヘ帰ル。其後直義コレヲ害ス　四月近
衛關白經忠南朝ヘ趣ク。經忠カ從弟前内府基嗣關
白トナル　七月洞院公賢右府ヲ辞ス。一條内府
經通左府ニ任シ。九條大納言道教右府ニ任シ。鷹司大
納言師平内府ニ任ス　八月奥州國司顯家軍ヲ
起シ　十二月鎌倉ヲ攻ム。義貞ガ次男義興是ニ屬

シ又北條時行モ相加ハル。尊氏ノ長男義詮戰ニマケテ鎌倉ヲ出奔

暦應元年正月。顯家義興等上洛路次濃州青野原ニテ。尊氏ノ大將桃井直常等ト合戰ス　同月。義貞義助杣山ヨリ出テ。越前府ノ城ヲ攻取ル。足利高經逃テ黒丸ノ城ニ入ル。義貞勢ヒ北國ニ振ヒ。京都ヲ攻ルノ志アリ　二月。顯家吉野ヘ赴ントテ。路次八幡南都ニテ。高師直桃井直常等ト數度合戰　五月。顯家戰破レテ。泉州安部野ニテ討死ス。年二十一。顯家カ弟顯信并新田義興八幡ニ籠ル　六月。師直八幡ヲ攻破ル　近衛基嗣關白ヲ辞ス。一條左府經通關白トナル　七月。義貞越前ヨリ状ヲ叡山ヘ遣シ。山徒ト牒シ合セ入洛セントス　閏七月二日。義貞黒丸ノ城ヲ攻テ。流矢ニアタリテ死ス。歳三十七。義助敗軍ノ勢ヲ集テ。越前ノ府ニ帰ル。義興ハ東國ヘ帰リ。顯信ハ奥州ヘ赴ク　八月。尊氏正二位ニ叙シ。征夷大將軍ノ宣下アリ。直義從四位上ニ叙シ。左兵衛督ニ任ス。或説ニハ。直義副將軍ノ宣旨ヲ蒙ルトイヘリ。高武藏守師直。武家ノ執事職ニ任シテ。其弟師泰ト。皆權威ヲ振ヘリ。尊氏ハ政務ヲミヅカラセズ。直義ニ任セテ執行シム。師直兄弟。直義ト睦シカラズ。同月。南朝後醍醐ノ天皇。吉野ニテ崩ス。歳五十一。重祚以後六年ニ及ヘリ。第七ノ皇子義良即位。後村上天皇コレナリ。母ハ准后廉子。先帝寵愛ノ人ナリ。

北畠大納言源親房。南帝ノ輔佐タリ。洞院ノ實世
四條ノ隆資。諸事ヲ執奏ス。親房ハ顕家ノ父ナリ。博
識才學アリテ。書ヲ多クアラハセリ。其子顕信奥州
國司ニ任セラル其次ノ子顕能伊勢國司ニ任セラル
二年七月。脇屋義助北國ノ兵ヲ集メ越前黒丸城
ヲ攻落ス。城主高經加勢ヲ請フ。京都ヨリ大勢發
向シケレハ。義助敗レテ。美濃ヘ落行。其ヨリ吉野ヘ参
ル。義助ニクミセシ北國ノ城々。皆没落ス。畑時能ト云ル
勇士。ワヅカ二十七人ニテ。鷹巣城ニコモリシハカリ。
久クコラヘシガ。是モ月ヲ歴テ討レテ。北國平均
十二月。一條經通左大臣ヲ辞ス。九條右府道教コレ
ニ替ル。鷹司内府師平右府ニ轉ズ。大納言源具親内
府ニ任ス。今年南朝改元興國
三年三月。出雲ノ塩冶判官高貞。高師直カ讒言ニヨ
リテ誅セラル　四月。脇屋義助。南帝ノ勅ヲウケ
テ南海ヘ赴キ。四國ヲ平ケントス　五月。義助伊豫ノ
國ニテ病死ス。尊氏ノ大将細川頼春軍ヲ起シテ義
助ニ従ル輩ヲ討平ケテ。四國平均　七月。源具親
内大臣ヲ辞ス。二條大納言良基内府ニ任ス
十二月。久我前右府源長通太政大臣ニ任ス。今年。禅
僧疎石ガ勸ニヨリテ。尊氏直義天龍寺ヲ建立ス。
疎石ヲ開山トス。夢窓國師是ナリ
四年正月。二條入道関白師忠薨ス。歳八十九。良基
ノ曽祖父ナリ

康永元年正月。一條經通關白ヲ辭ス。九條道教關
白トナル　二月。久我長通太政大臣ヲ辭ス
九月土岐頼遠光嚴上皇ノ御幸ニ行逢テ狼藉ニ
及ブ直義怒テ頼遠ヲ誅ス　十一月九條道教關
白ヲ辭ス。鷹司右府師平關白トナル　十二月尊
氏ノ母藤原清子卒ス。是ハ上杉頼重ガ娘ナリ。此
コレニヨリテ上杉ノ一族威ヲ振ヘリ
二年四月。洞院前右府藤原公賢左府ニ任ス。二條内
府良基右府ニ任ス。三條大納言實忠内府ニ任ス
三年正月。尊氏石清水參詣　九月直義從二位ニ叙ス
貞和元年。八月二十九日。天龍寺供養。尊氏直義參
詣。夢窓國師導師タリ　花園上皇光嚴上皇モ。

御幸アルベキ沙汰アリ。處ニ山門南都ヨリ嗷訴スル
ヨリテ。當日ハ延引アリテ。翌日ニ御幸アリ
同月。三條實忠内府ヲ辭ス。大炊御門冬信内府ニ
任ス　同年。備前兒嶋ノ三宅高德等。義助ガ子義
治ヲ取立潜ニ京ヘ上リ。尊氏直義ヲ夜討ニセントス。
事アラハレテ信濃國ヘ逃去ル
二年二月。鷹司師平關白ヲ辭ス。二條右府良基關
白トナル　二月冬信内府ヲ止テ。德大寺公清内
府ニ任ス　六月洞院公賢左府ヲ辭ス
今年南朝改元正平
三年八月。公清内府ヲ辭ス　九月關白良基左大
臣ニ任ス。九條經教右府ニ任ス。近衞道嗣内府ニ任ス

四年八月楠正行兵ヲ起シテ河内ヨリ攝州ヘ出張
尊氏ヨリ細川顕氏ヲ遣シテ討シム藤井寺ニテ合
戰ス顕氏敗軍ス正行潜ニ京ヘ上リ尊氏直義ノ舘
ヲ伺ニ攻ケレハ尊氏ハ免レテ江州ヘ逃行直義ハ兼
テ地道ヲ鑿テヲキケルユヘニ其道ヨリ逃出或説
ニハ此時俄ノ事ニテ周章ケレハ尊氏ノ御臺所害セ
ラルト云リ正行河内ヘ帰ル尊氏直義帰洛
十月洞院公賢太政大臣ニ任ス位次関白左大臣良
基ノ下ニ座ス　同月主上位ヲ御姪興仁ニ譲ル
年號建武一年　暦應四年
康永三年　貞和四年　在位合テ十二年
九十八代

崇光院　諱ハ興仁光嚴院ノ長子ナリ母ハ陽祿
門院藤原秀子ニ三條大納言公秀カ娘ナリ
貞和四年十月光明院ノ譲リヲウケテ踐祚シタマ
フ歳十五花園法皇ノ御子直仁ヲ東宮ニ立ラル
十一月花園法皇崩ス萩原院トモ申ス　同月尊氏
山名時氏細川顕氏ヲ遣シテ楠正行ヲ討シム住吉
安部野ノ邊ニテ合戰シテ京勢大ニ敗レテ帰ル
十二月武家執事高師直師泰大軍ヲ率テ正行ヲ討ス
五年正月師直四條縄手ニテ正行ト合戰ス正行大軍
ヲ打敗リ師直已ニ危カリシカ能防ユヘ正行ハ矢ニアタ
リテ討レヌ歳二十六其弟正時并ニ一族多ク亡ス師
直ス、ミテ吉野ヘ攻入ル南帝賀名生ヘ奔ル師直ハ

歸京ス師泰ハ河内ノ石川河原ニ陣シテ正行ガ弟正
儀ト對陣ス。コレヨリ師直悪逆濫乱ニシテ弥驕テ
尊氏直義ヲモ輕ゼシカバ上杉重能畠山直宗コレヲ
ソネミタンデ天龍寺ノ僧妙吉ト相カタラヒ師直
ガ悪ヲ直義ニ訴テ誅セントハカル直義同心ス尊氏ノ
落胤ノ子ニ直冬トイヘルアリ尊氏コレヲウトンジテ遠
ザケケルヲ直義取立テ西國ノ探題トシ己ガ援トス。
八月直義館ヘ師直ヲ召テ既ニ誅セントスル時師直
サトリテ私宅ニ皈リ師泰ヲ河内ヨリ呼帰シ徒黨
ヲカタラヒ直義ヲ攻直義逃テ尊氏ノ館ニ入ル師
直大軍ヲ催シ尊氏直義ヲ圍ム。コレニヨリテ直義ハ
政務ヲ止ラレ重能直宗ハ越前ヘ流サレ途ニ殺サ

ル妙吉ハ逐電ストモ云又殺サレタリトモ云
九月關白良基左府ヲ辞ス九條經教左府ニ轉シ近
衛道嗣右府ニ任シ竹林院公重内府ニ任ス竹林院
ハ西園寺ノ分レナリ　十月尊氏ノ長男義詮鎌
倉ヨリ上洛直義ニカハリテ政ヲ行フ師直權ヲ恣ニ
ス義詮弟基氏ヲ鎌倉ノ管領トス高師冬上杉憲顕
其家老タリ　十二月直義剃髪シ恵源ト号ス歳四
十二初尊氏鎌倉ヲ出シヨリ以来護良ヲ害シ朝敵
トナリ世ヲ奪シコトハ多ハ直義ガ姦謀ニヨレリ故ニ其功
ニ誇リ威モ重クシテ近年尊氏ニ替テ政ヲトレリ壯
年スグルマテ子ナカリシガ四十ニ餘リ初テ男子ヲ
生リコレヨリ師直誅伐ニ事ヨセテ密ニ世ヲ奪ノ

志モアリケルニヤ
觀應元年三月洞院ノ公賢太政大臣ヲ辞ス
同年冬直冬筑紫ニテ兵ヲ起ス石見國ノ士三角入道國中ヲ平テ直冬ニ應ス　六月三角退治ノタメニ師泰石見ヘ發向ス　八月義詮参議ニ任シ左中將ヲ兼ラル　十月直冬誅伐ノタメニ尊氏并ニ師直西國ヘ赴ク義詮京ノ警固タリ直義入道恵源密ニ京ヲ出　十二月吉野ヘ降参ス十八日大將ノ宣旨ヲタマワル
二年正月恵源南方ノ軍兵ヲ催シ京ヲ攻ントス桃井直常コレニ應シテ北國ヨリ攻上ル義詮都ヲ落直常入洛コレヲ聞テ尊氏并ニ師直帰京直常ト合戰シ直常敗軍シカレドモ人皆師直ヲ悪テ恵源ニ従フユヘ尊氏師直ハ又西國ヘ落行義詮ハ丹波ヘ落行直常又入洛　二月師泰石見ヨリ帰テ尊氏師直ト播州ニ参會シ一ツニナリテ兵ヲ集メ攝州光明寺小清水所々ニテ恵源ト合戰毎度尊氏討負シカハ松岡城ニ籠リ既ニ自害セントス此時恵源ト和睦ノ儀調リテ尊氏恵源義詮皆帰洛ス師直師泰ハ剃髪シテ降参シケルヲ路次ニテ二人共ニ打殺ス其一族皆所々ニテ殺サル高師冬モ關東ニテ殺サル
四月竹林院ノ公重内府ヲ辞ス　六月花山院ノ大納言藤原長定内府ニ任ス　七月尊氏恵源再ヒ不和ナリ恵源北國ヘ赴ク　九月尊氏北國ヘ赴カントス

惠源北國ヨリ関東ヘ赴キ。鎌倉ヘ入ル　十月。尊氏
關東ヘ進發ス。義詮都ノ守護タリ　十一月。尊氏
駿州薩埵山ニ陣ス。惠源關東ノ大軍ヲ催シ。尊氏
ヲ囲ム　十二月。宇都宮公綱藥師寺公義等尊氏
ニ應ジテ。薩埵山ノ後攻シケルニヨリテ惠源大ニ
敗レテ。尊氏ヘ降参ス。尊氏コレヲ携ヘテ鎌倉ヘ入ル。
幾程ナク。惠源ハ病死セリ。或ハ毒ヲスヽメテ害セ
ラルヽトモイヘリ。此間京都兵スクナクシテ危カリ
ケルニヨリテ。義詮南帝ト和睦南帝イツハリテノ
許容ス。コレニヨリテ觀應二年ヲ改テ。南朝ノ年号
正平六年ヲ用ユ二條關白良基ヲ初トシテ。百官
皆吉野ヘ参ル。吉野伺候ノ輩皆官位昇進北畠大

納言源親房准后ノ宣旨ヲ蒙ル。南帝ノ舅ニテ勲
功アルユヘナリ。翌年二月。南帝吉野ヲ出テ住吉天王
寺ヘ行幸。伊勢國司源顯能。兵ヲ率テ参候即八幡
ヘ行幸。顯能并楠正儀等ヲシテ。俄ニ京ヲ攻シム。義
詮江州ヘ落行。細川頼春討死ス。顯能勅ヲウケテ
上洛シ。持明院殿ヘ参リ。本院光嚴新院光明主上崇
光東宮直仁ヲ車ニ載奉リ。吉野ノ奥賀名生ニ押
籠奉ル。主上在位纔ニ三年ニテ。トラハレタマヒシ
カバ。平安城ニ主ナクシテ。荒廢ノ地トナレリ。
兵乱ウチツヾキケルユヘニ。御禊大嘗會モ行ハレ
ス。此比関東ニハ故義貞ノ家嫡。左少將義宗。其庶兄
義興并ニ義助ガ子義治。義兵ヲ起シ。尊氏ト武藏野

ニテ合戰。此戰ニ石堂入道密ニ新田ト通ジ。尊氏ヲ
討ント謀ル。其子右馬助同心セズ。故ニ石堂恐テ新
田方ヘ加ル。義興義治ハ鎌倉ヘ攻入テ。基氏ヲ攻ケ
レバ。基氏出奔ス。其後笛吹峠ニテハ尊氏義宗合戰
シ。義宗打負テ越後ヘ赴ク。尊氏又鎌倉ヲ攻ケレバ。
義興義治退テ河村ノ城ニ籠ル　三月。義詮勢ヲ催
シ上洛。八幡ヲ攻テ度々合戰　五月。南方ノ官軍
敗レテ。南帝八幡ヲ落テ吉野ヘ帰ル

九十九代

後光嚴院　諱ハ彌仁。崇光院同腹ノ弟ナリ。崇光
院ハ。南方ヘトラハレ。南帝モ八幡ヲサリテ。吉野ヘ
還幸ニヨリテ。義詮ノハカラヒニテ。觀應三年八月。彌
仁即位シタマフ。時ニ十五歳ナリ。三種ノ神器モ先ニ南
方ヘ渡シヌレバ。即位如何ト申輩アリトイヘドモ。武家強
テ申行ヘリ。或說ニハ。二條關白良基申サレケルハ。寳劍ニ
ハ。尊氏ヲ用ヒラルベシ。神璽ニハ。良基ヲ用ヒラルヘシ
トテ。踐祚アリケルト云リ　九月。文和ト改元ス
十一月。主上ノ外祖大納言公秀内大臣ニ任ス
文和二年。山名時氏。其子師氏。謀叛シテ南朝方ト
ナル。コレハ去年八幡ノ合戰ニ。師氏軍功アルニヨリテ。義
詮ニ出頭シケル佐々木道譽ヲ賴テ賞ヲ望ム。道譽
驕テ師氏ニ對面セス。故ニ師氏怒テ本國伯耆ヘ帰
リ。時氏ヲスヽメテ軍ヲ起セリ　五月。伯耆ヲ出テ。
六月。吉野ノ官軍ト牒シ合セテ都ヘ攻上ル。義詮敗軍

シテ主上ヲ伴ヒ奉リ坂本ヘ落行其ヨリ東國ヘ行幸敵
追來リケレハ路次ニテ道誉カ子秀綱討死主上ヲハ細
川清氏背ニ負奉リケルトナン義詮濃州垂井ニ暫皇居ヲ
定メテ義詮守護シ奉ル諸國ノ勢ヲ集テ山名ヲ討
ントス山名父子勢ツキテ伯耆ヘ帰ル義詮主上ヲ守
護シテ都ヘ還幸アリ
三年春新田義興脇屋義治河村城ヲ出奔シ東國
ニツニアリケレハ尊氏畠山國清ヲ基氏ノ家老トシテ
関東ヲ守ラシメテ尊氏ハ帰洛ス仁木左京大夫頼章
ヲ武家ノ執事職ニ任ス義詮ヲシテ播磨ニ赴シメ勢
ヲ催シ山名ヲ討シム山名コレヲ聞テ直冬ヲムカヘテ大
將トスコレニヨリテ直冬南帝ノ方トナリテ尊氏ト

父子ノ合戰初ル越前ノ足利高經越中ノ桃井直
常モ尊氏ニ怨アルニヨリテ直冬ニ屬シ北國ヨリ京
ヲ攻ント約ス　十二月山名時氏伯州ヲ發ス
四年正月尊氏主上ヲ伴ヒ奉リ江州ヘ落行直冬
并時氏高經直常入洛　二月尊氏東國ノ兵ヲ
催シ東坂本ニ陣ス義詮ハ西國ノ勢ヲ催シ神南ニ陣
ス時氏師氏神南ヲ攻ム細川頼之赤松則祐佐々木
道誉等ヨク防ケレハ師氏疵ヲ蒙テ敗軍ス直冬以
下東寺ノ城ニ籠ルコレヨリ尊氏直冬洛中東寺ニテ
合戰數度ニ及フ仁木細川土岐佐々木赤松等前後
尊氏ニ貳心ナクシテ軍功アリ　三月南方ノ兵粮
少キニヨリテ直冬時氏高經直常皆其本國ヘワカレ

去ル尊氏義詮歸洛ス。其後高經ハ。義詮ノ招ニヨリテ。武家ヘ歸參ス

延文元年七月。久我ノ大納言源ノ通相内大臣ニ任ズ

八月。義詮從三位ニ叙ス

二年二月。光嚴法皇光明院崇光院吉野ノ奥山ヨリユルサレテ歸京シタマフ

三年二月。直義ニ從二位ヲ贈ラル　四月二十九日。征夷大將軍正二位大納言源ノ尊氏逝去。年五十四。從一位左大臣ヲ贈ラル。等持院殿仁山ト号ス。鎌倉ニテハ。長壽寺殿ト称ス。建武三年ヨリ。延文三年マデ。治世二十三年。宰相中將義詮其跡ヲ繼デ武將トナル　十月。鎌倉ノ管領基氏。其家老畠山國清入

道道誓ト分リテ。江戸遠江守同下野守竹澤右京亮ヲ遣シテ。新田義興ヲタバカリテ。武藏矢口渡ニテコレヲ殺ス。其外新田ノ一族所々ニアリケルヲモ。基氏尋出シテコレヲ平ゲ。基氏鎌倉ニ居ズシテ。武藏入間川ニ陣取テ。武備嚴重ナルニヨリテ。東國無事ナリ　十一月菊池武光ハ。元來南朝ノ方ニテ。肥後國ニ住シ。年々小貳大友等ト合戰。尊氏ヨリヲカレタル探題ヲモ攻破ル。此年又尊氏逝去ヲ聞テ。九州處々ニテ。合戰數度ニ及テ。菊池勝利ヲ得タリ。コレヨリサキ。南朝ノ官ヲ一人申下シ。征西將軍ト仰グ。新田ノ一族。其外諸國ノ兵。筑紫ニ行テ菊池ヲ頼ム者多シ。九州ハ大半菊池ニナビケリ　十二月。義詮征夷大將軍ニ任ス。日野左中辨時

光勅使タリ。佐々木道誉嫡孫秀詮。其宣旨ヲ請取。
同日。二條良基関白ヲ辞ス。九條経教関白トナル
四年二月。義詮武蔵守ヲ兼　十月武家執事仁木
頼章死ス。細川相模守清氏執事トナル　十一月畠
山道誓基氏ノ名代トシテ。関東ノ大軍ヲ催シ上洛
シ。義詮ニ謁シテ。南帝ヲ攻ンコトヲスヽム　十二月義
詮及道誓数十万ノ勢ニテ。南方ヘ発向ス。楠正儀和
田正武コレヲ防ク
五年二月ヨリ。京勢関東勢。南方ノ兵ト。龍門山銀嵩
龍泉平岩等ノ所々ニテ合戦シ　五月赤坂城ヲ攻
落ス。南帝ノ皇居ハ観心寺ト云ル深山ナレハ。敵寄来
ルコトアタハズ。和田楠モ金剛山ノ奥ヘカクレケレバ。義詮

并道誓帰洛。此時仁木義長ト云モノアリ頼章ガ弟也
尊氏ノ時ヨリ軍功アルニヨリテ。甚驕リケルユヘ。道誓清
氏等ト不和ナリ。道誓南方退治ニコトヨセテ。義長ヲ
亡サントス　七月南方ノ軍兵又蜂起ス。道誓清氏
等是ヲ討ントテ。天王寺ニ出張シ。勢ヲ集テ義長ヲ
攻ントス。義長急キ兵ヲ率テ。義詮ノ館ヘ来テ。強テ道
誓清氏追討ノ御教書ヲ申給リ。執事職ニ任セラル。
佐々木道誉ガ謀ニテ。義詮女ノ姿ニ変シテ。館ヲ出
テ西山ノ谷ノ堂ヘ落行。コレヲキヽテ義長ニ従フモノ皆
退散ス。義長モ勢ツキテ。伊勢ヘ落行。義詮帰洛。道誓
清氏等モ帰京ス。南方又蜂起。畠山道誓功ナキコト
ヲ恥テ　八月潜ニ関東ヘ帰ル　九月関白経教左

府ヲ辞ス近衛右府道嗣左府ニ任ス鷹司大納言冬
通右府ニ任ス源通相内府ヲ辞ス三條大納言公忠内
府ニ任ス
康安元年六月雪降ル其外火災地震等アリ
七月山名時氏伯耆ヨリ美作ヘ出張ス赤松ト合戰
ス　九月楠正儀摂津ヘ出張ス佐々木秀詮ヲ討
殺ス筑紫ニハ菊地又起テ小貳大友等ヲ打敗ル
同月細川清氏ト佐々木道誉ト権ヲ争テ不和ナ
リ義詮道誉カ言フトコロヲ信シテ清氏叛逆ニ究ラ
レケレハ清氏都ヲ落テ若狭ヘ赴ク　十月足利氏
頼等ヲシテ清氏ヲ攻シム清氏南朝ヘ降参ス即大
將ノ宣旨ヲ蒙ル　十一月関東ニテ諸士千餘人言

合セ畠山道誓カ非悪ヲ訴フ基氏畠山ヲ譴責ス
畠山謀叛シテ伊豆ノ修禅寺ニ籠ル　同月九條
經教關白ヲ辞ス近衛道嗣關白トナル　十二月細
川清氏楠正儀等都ヘ攻入ル義詮主上ヲ守護シテ
江州ヘ落行清氏等入洛ス義詮ノ嫡子義満ワツカ
四歳ナリシヲハ禅僧蘭洲コレヲ隠シテ播州赤松則
祐ニ預ケ申ス義詮諸國ノ兵ヲ呼集ケレハ清氏ハ南
方ヘ帰ル義詮帰洛
貞治元年正月細川清氏阿波國ヘ赴ク四國ヲ討従
ヘントタメナリ義満播州ヨリ帰洛　義詮足利氏頼ヲ
執事トセントス其父高經入道道朝同心セスコレニヨリ
テ道朝カ末子義将執事トス年ワカキユヘ道朝諸

事ヲトリ行フ氏頼ハ遁世ス道朝ガ家号ヲ斯波ト云其子孫兵衛ニ任ズルユヘニ武衛ト称ス　四月主上江州ヨリ京ヘ還幸アリ　六月直冬并山名時氏等中國ニ出張ス　七月細川右馬頭頼之讃岐國ニテ細川清氏ト合戦清氏討レテ四國悉ク頼之ニ従フ

九月道朝ガ次男氏經九州ノ探題ニ任セラレテ下向ス菊地武光是ヲ打敗ル氏經剃髪帰洛　十月関白道嗣左府ヲ辞ス鷹司冬通左府ニ轉ズ久我前内府源通相右大臣ニ任ズ　十二月三條公忠内大臣ヲ辞ス

二年正月義詮大納言ニ任ズ　三月洞院大納言藤原實夏内大臣ニ任ズ　六月道嗣関白ヲ辞ス二條良基関白ニ再任ス　七月義詮従二位ニ叙ス

三年二月實夏内大臣ヲ辞ス西園寺大納言實俊内府ニ任ス　同年春周防ノ大内入道武家ヘ降参シテ上洛山名時氏父子モ降参ス因幡伯耆丹波丹後美作五ケ國ノ守護ヲ武家ヨリ授ラル仁木義長モ勢ツキテ降参ス畠山道誓ハ関東ニ咎ミリエズ潜ニ河内ヘ赴テ南朝ヘ降参セント思ヒ楠ヲ頼ミケレドモ許容ナキニヨリテ遂ニ流浪シテ死ス　六月基氏上杉民部ノ大輔憲顕ヲ以テ鎌倉ノ執事トス芳賀禅可ト云ル者上杉ト不和ナルユヘコレヲ怒テ謀叛ス基氏自ラ出馬シテ芳賀ヲ打敗ル関東ノ武士皆基氏ノ威ニ服ス　七月光厳院法皇崩ス年五十二

四年三月一條前関白經教薨ス年四十九　佐々
木道譽幷諸大名等執事道朝ヲ義詮ニ讒ス
八月道朝都ヲ落テ越前ヘ赴ク京都ヨリ討手ヲ遣サル
五年七月道朝越前ニテ病死其子義將降参ス
八月久我右大臣源通相太政大臣ニ任ス西園寺實
俊右府ニ任シ二條大納言師良内府ニ任ス　九月斯
波義將ヲ越中ノ守護トシテ桃井直常ヲ討シム
同月高麗人来朝ス　十二月義詮カ嫡男義滿従
五位下ニ叙ス其名字ハ宸筆ヲ染ラル二條関白良基
コレヲ取沙汰ス二條家武家ト睦キハ此比ヨリノ事ニヤ
六年正月義詮正二位ニ叙ス　三月中殿ノ倭歌
ノ御會義詮モ参内　四月鎌倉管領左馬頭源基

氏卒ス歳二十八或ハ二十一歳トモイヘリ瑞泉寺ト
号ス其子氏滿相継テ関東ヲ領ス上杉憲顕コレ
ヲ輔佐ス或説ニハ義詮器量スグレザルユヘ尊氏他人ニ
奪レンコトヲヲソレテ基氏ニ関東ヲアタヘテ義詮ノタ
スケトス然トモ義詮常ニ基氏ヲ疑フ故ニ基氏神
ニ祈テ早世シ其疑ヲ解ト云ヘリ　八月良基関白
ヲ辞ス鷹司冬通関白トナル　九月西園寺實俊
右府ヲ辞ス二條師良右府トナル三條實継内府ニ
任ズコレハ公秀カ子ニテ主上ノ外舅ナリ　同月義
詮不例ニヨリテ政務ヲ義滿ニ譲リ細川右馬頭頼之
ヲ四國ヨリ呼寄執事トシ武藏守ニ任ス管領ト
号ス或説ニハ道朝没落ノ後佐々木道誉ヲ執事ト

スベシトノ沙汰アリシヲ基氏聞テ頼之ヘシカルベシト推挙セラル、ユヘニ今ノ頼之ヲ執事トスト云リ　十二月源義満正五位下ニ叙シ左馬頭ニ任ス時ニ纔ニ十歳ナリ是月七日征夷大将軍正二位前大納言源義詮逝去歳三十八寶篋院ト号シ瑞山ト称ス同晦日左大臣従一位ヲ贈ラル延文三年ヨリ今ノ年マデ治世十年ナリ頼之顧託ヲ受テ幼君ヲ輔佐シ天下ヲ以テ己カ任トシ政道私ナク法條ヲ立テ是非ヲ決断シ文才アル者ヲシテ義満ノ前ニ侍ラシメ善言ヲ以テ教導キ法師六人ニ異様ノ衣ヲ着セ刀脇指ヲ帯シメ侫坊童坊ト名ケ人ニ諂媚セシム諸士ノ追従軽薄ナル者ヲハ侍童坊ト名ケテハヅカシメ其心ヲ義満ノ讒侫ヲ遠ザケシメ武士ノ風俗ヲナホサンタメナリ

應安元年二月禅僧中津妙佐ヲ大明ヘ遣ス今年大明太祖ノ洪武元年ニアタレリ中津ヲバ絶海ト号ス妙佐ヲバ汝霖ト号ス二人共ニ文才アル僧ナリ

三月南帝後村上天皇崩ス其子寛成即位長慶院ト号ス　四月義満元服頼之加冠タリ細川兵部大輔業氏理髪タリ　六月禁裏仙洞殿下并ニ神領寺領等沙汰アリテ武士ノ濫妨ヲ停止セシム同月義満ノ名代トシテ頼之石清水ヘ参詣銀劔神馬砂金等奉納ス　九月鎌倉ノ執事上杉憲顕死ス其子能憲其姪朝房相ナラビテ事ヲ執リ両上杉ト号ス　十二月源義満征夷大将軍ニ補ス時ニ

十一歳
二年正月楠正儀武家ヘ降參スベキ由申ニヨリテ義
滿御教書ヲ贈ラル　三月楠加勢ノタメニ京ヨリ細
川右馬助頼元赤松判官等ヲ南方ヘ遣サル
四月正儀入洛先頼之ニ逢テ後ニ義滿ニ謁ス
四月叡山衆徒南禪寺ヲ破却セント奏ス公家武家
裁斷ナキユヘ衆徒嗷訴メ日吉ノ神輿ヲ捧テ内裏ニ
振捨火ヲ放ントス佐々木崇永コレヲ防ニヨリテ山徒
帰山シ内裏無事ナリ宸翰ヲ崇永ニ賜テ感セラル
神輿ヲバ祇園ノ社ヘ入テ後ニ帰山　九月斯波義將
越中ニテ桃井直常ト合戰直常敗テ松倉城ニ籠
ル國人皆武家方ニ屬ス　十一月鷹司冬通關白
ヲ辞ス二條右府師良關白トナル
三年三月桃井直常カ孫直和等越中長澤ヘ出張ス
斯波義將ト合戰シ直和以下討レテ餘黨潰落ス
同月關白師良左府ニ轉ス九條大納言忠基右府ニ
任ス二條實繼内府ヲ辞ス勸修寺前大納言藤原
經顯内府ニ任ス年七十二光嚴院ノ時ヨリ奉公ノ勞
アル人ナリ　四月義滿六條新八幡宮并北野祇
園ヘ參詣　十一月和田其以下南方ノ武士楠正
儀ガ要害ヘ寄テ合戰ス頼之大軍ヲ催シ南方ヘ
發向シ敵ヲ追拂ヒ山名氏清ヲ河内ニ留置テ南方
ノヲサヘトシテ頼之ハ帰洛ス正儀ハ武家ヘ降參スト
云トモ其一族等猶正成正行ガ遺訓ヲ守リ南帝ノタ

メニ忠ヲツクス者アリケルトナン今年南朝正平ヲ改
テ建徳ノ年号ヲ立タリ
四年二月山名時氏死ス　同月鎮西菊池武政以
下南朝方ノ者トモ起ニヨリテ今川伊豫守貞世入道
了俊ヲ九州ノ探題ニ補シテ下向大内義弘ヲ相副テ
ル此比菊池九州ヲナビカシ其取立タル南朝ノ宮ヲ関西
親王良懐ト云使者船ヲ仕タテ大明ヘ遣ス其状ニ日
本國王良懐ト書セリ大明ヨリ日本國王ヘ来ル使者
ヲモ筑紫ニテヲサヘ京ヘヤラス其返事ヲ調テ遣ス言
リテ大明ニハ良懐ヲ真ノ日本ノ王ナリトヲモヘリ
三月主上位ヲ東宮緒仁ニ譲ル
年号　文和四年　延文五年　康安一年

貞治六年　應安四年　在位合テ二十年

百代

後圓融院　諱ハ緒仁後光嚴院ノ長子ナリ母ハ崇
賢門院四辻大納言藤原兼綱ガ娘ナリ
應安四年三月ニ受禅時ニ十四歳後光嚴院ハ上皇院
中ニテ政キコシメス此時光明院崇光院モ猶存生ニテ伏
見ニマシマス譲位ノ沙汰兼テ崇光院キコシメシ御子ノ
榮仁親王正統タル上ハ頼之ニ御談セラルレトモ後光
嚴モ深ク頼之ヲタノミタマヘルニヨリテ伏見殿ノ望カナハ
ズコレヨリ崇光ト後光嚴ト御兄弟不和ナリ
五月細川右馬助頼元南方ヘ發向　同月細川武
藏守頼之故アリテ管領職ヲ辞メ西山西芳寺ニ蟄

名義滿赤松律師則祐等ヲシテ呼カヘス頼之ヘ即帰洛
或説ニハ頼之已ガ威ツヨクシテ人ノ畏ルコト甚ヲノサト
リテ其威ヲ滅シ義滿ニ威ヲツケンタメワザト義滿ト
密談相約シ諸大名出座ノ時義滿ニツヨクシカラレテ
迷惑ノ体ニテ丹波ノ山國ヘ暫蟄居スコレヨリ人皆將
軍家ヲヲモンズト云リ　七月藤原經顯内府ヲ辞
ス　同月桃井直常越中ヘ出張合戰ス　八月南
方ノ兵蜂起メ楠ガ要害ヲ攻京都ヨリ加勢ヲ多ク
遣サル　十月石清水八幡宮叡山造營頼之相摸
守ニ任ズ　十一月赤松則祐死ス歳六十
五年三月今川了俊筑紫ニテ菊池武政等ト合戰大
内ノ介義弘兵ヲ率ヒテ了俊ヲ救テ勝利ヲ得タリ

九月萬壽寺ヲ五山ノ列トス東福寺武家ノ制法
ヲ背ユヘ五山ノ名ヲ除ントス寺僧謝メカワルコトナシ
其外禪宗法条ヲ定ル　十一月義滿判始石清水
神領ヲ寄附セラル時十五歳ナリ今年南朝改元文
中
六年三月細川左衛門佐氏春南方退治ノタメ尼崎
ニ陣ス　六月大明ノ使僧仲猷無逸鎮西ヨリ入洛嵯
峨ニ居シム其趣大明ヨリステニ使者二三度日本ヘワ
タスト云トモ筑紫ニテ菊池ニヲサヘラレ京ヘ到ルコトアタ
ワズ故ニ両僧ヲシテ来シム義滿聞テ驚ク　八月南
帝長慶院位ヲ其弟凞成王ニ譲テ吉野ヲ没落ス南
方ノ餘黨河内天野ニ陣ヲ取テ京勢ノ陣ヘ夜討ス

同月佐佐木道譽死ス　九月大明ノ両使僧歸國
十月鎌倉五山ノ事住持職ハ義満ヨリ沙汰セラルヘシ
其外ノ寺法ハ鎌倉ノ管領氏満ノハカラヒタルヘシト定
ラル　十一月義満従四位下ニ叙シ参議ニ任シ左
中将ヲ兼テ左馬頭ヲ鎌倉ノ氏満ニ授ラル
十二月義満九州發向ノ評議アリ頼之ト相ハカリテ
鎌倉ノ上杉弾正朝房ヲ召テ京都ノ警固トシ仁
木義長ヲシテ伊勢ノ北畠ヲヲサヘ山名氏清ヲシテ
南方和田楠カ一族ヲヲサヘ武田小笠原ヲシテ伊豫
ノ金谷等ヲヲサヘシム其外東ハ伊豆ヲ限リ北ハ越後ヲ
限テ諸國ノ軍勢ヲ召アツム
七年正月後光嚴上皇崩ス年三十七　三月義満

筑紫發向頼之斯波義将畠山義深仁木今川土岐
佐々木等カ一族大名三十九人軍勢十萬騎ニ及ヘ
リ山名師氏赤松一族先陣タリ　四月義満安藝
ニ到ル先陣長門ニ到テ菊池武政ト合戰シ山名赤
松敗北ストイヘトモ細川讃岐守義之カ四國ノ勢カツヽ
キテ攻カヽリケレハ嶋津伊東等菊池ニ背テ降参
ス菊池敗テ征西将軍ノ宮ヲ具シ奉テ宰府ニ陣ス
原田秋月等九州ノ者トモ皆菊池ニ背ク菊池筑後
ノ高良山ニ陣ス義満宰府ニ到ル細川山名赤松等
菊池ト合戰數度ニ及ヘリ　九月菊池降ヲ乞テ和
平ノ儀調リテ菊池肥後ヘ帰ル義満日向ヲ伊東ニ
アタヘテ筑前肥前ヲ少貳ニサヅケ豊後ヲ大友ニ

賜リ。長門豊前ヲバ大内義弘ニ賜フ。筑後肥後并ニ肥前ノ内ニハ菊池ガ兵處々ニ城ヲ構テ守レリ　十月。義満帰洛　十一月。上杉朝房鎌倉ヘ帰ル。此ヨリ義満ノ武威大ニ盛ニシテ。南方モ衰シカバ諸國ノ武士皆京都ヘツドヘリ　十二月。主上即位ノ儀式行ハル。践祚以後世上シヅカナラズ。其上春日ノ神木故アリテ入洛。年ヲ歴ケルユヘ。藤原氏ノ輩。公役ニ出ガタキ故ニ。大禮延引セルトナン

永和元年三月。義満石清水参詣行粧済々。太刀神馬砂金奉納アリ。善法寺ヲ宿坊トス。當社者義家ヨリ源家ノ氏神タルニヨリテ。殊ニ崇敬セラル　四月。義満初テ参内　八月。義満館ニ倭歌會　同月。筑紫ニテ。太宰少貳冬資逆心アリテ。探題今川了俊ニ討レヌ　十月。御禊　十一月。大嘗會久延引ニヨリテ。武家ヨリ申シ沙汰ス　同月。義満従一位ニ叙ス　十二月。二條師長関白左府ヲ辞ス。九條右府忠基左府ニ轉シ。関白トナル。師良ガ弟大納言師嗣右府トナル近衛大納言兼嗣内府トナル。此時二條良基。九條経教近衛道嗣鷹司冬通二條師良五人共ニ前関白ニテ致仕セリ。今年南朝改元天授

二年正月。禅僧絶海汝霖。大明ヨリ帰朝。此僧大明ノ太祖皇帝ニ謁セシ時。徐福ガ事ヲ問タマヒケレバ絶海詩ヲ献ズ。御製ノ和韻ヲ賜レリ　七月。荒川某石見國ノ守護ニ補セラレテ下向ス。此時直冬既ニ降参シ

ケレバ。義満其罪ヲ赦シテ。石州ニ居シム　十二月。頼
之并ニ諸大名馬ヲ貢ス
三年。朝鮮國ノ使者鄭夢周来朝。筑紫ニテ探題今川
了俊ニ逢テ帰國
四年三月。義満犬追物ヲ興行ス　同月。義満室町
ノ新館ヘ移徙。室町殿ト号ス。庭ニ花ヲ多ク栽ルユヘ。
花御所ト号ス　同月。義満大納言ニ任ス　四月。鎌
倉ノ上杉能憲死ス。其弟刑部ノ大輔憲春代テ事ヲ
行フ　八月。関白忠基左府ヲ辞ス。二條師嗣左府
ニ任ス。近衛ノ兼嗣右府ニ任ス。今出川前ノ大納言藤
原公直内府ニ任ス。義満右近衛ノ大将ヲ兼ラル
十一月。南方ノ橋本民部等。紀州ニ蜂起シ。細川兵部ノ
大輔氏春ト戦フ。京ヨリ細川右京ノ大夫頼元。山名
修理ノ大夫義理同陸奥ノ守氏清并ニ石堂赤松等。紀州
ヘ發向。敵没落スルニヨリテ。京勢帰陣　十二月。義
満従二位ニ叙ス　同月。南方又蜂起。義満自ラ東
寺ニテ。山名義理氏清等ヲ遣テ退治セシム
康暦元年正月。義満馬寮御監トナル　同月。山名
義理。氏清等。紀州ノ敵ヲ攻破リ。土丸城ヲ攻落ス。又
湯浅カ城ヲモ攻落ス　二月。鎌倉ノ管領左馬頭氏満
逆心キザシ。京ヲ攻ントス。上杉憲春諫レドモ許容セズ
同月。南都ノ衆徒ノ訟ニヨリテ。大和ノ十市某ヲ退
治セシメテ。京都ヨリ斯波左衛門ノ佐義将并ニ一色富樫
赤松等。近江勢。美濃土岐勢ヲ副テ發向セシム。其折

節洛中騒動ス。コレニヨリテ南都発向ノ勢ヲ召返サル、
トコロニ義将并ニ土岐勢路次ヨリ没落ス。義将ハ江州ヨリ
帰洛ス。土岐大膳大夫ハ陰謀ノキコヘアルニヨリテ、義
満御教書ヲ諸国ヘ遣シテ土岐ヲ誅セシム　二月、義
満鎌倉ノ陰謀ヲ聞テ、自筆ノ状ヲ上杉憲春ニタマフ
テ、都鄙静謐ノ事ヲ仰遣サル。憲春教訓スレドモ氏満
邪謀止サルニヨリテ、憲春自害ス。氏満驚悔テ逆心稍
解ヌ。憲春ガ弟安房守憲方ヲ用テ政事ヲ掌シム。
憲方始テ鎌倉ノ山内ニ居レリ　同月土岐大膳
大夫赦免セラレテ、使者ヲ京ヘ献ス。佐々木大膳大
夫路ヲ塞テ通サズ。義満聞テ、土岐ヲバ弥ユルサレテ佐
々木ヲ誅伐セントス　四月、土岐佐々木共ニ赦免セラ

レテ上洛　閏四月十四日、洛中騒動ス。諸人武具ヲ帯
テ、義満ノ花御所ヘ馳集ル。二階堂中務、松田丹後守
ヲ使トシテ、細川武蔵守頼之ガ宅ヘツカハシ、管領職
ヲ止テ四国ヘ赴シム。其弟頼元等ニ一族皆勘気ヲ蒙ル。
頼之ハ出京ノ時剃髪シテ、名ヲ常久ト改ム。異日禅
僧妙葩春屋ト号ス。丹後ヨリ帰洛。此僧ハ夢窓弟子
ナリ。義満治世ノ初、山門嗷訴シテ南禅寺ヲ破セント云
シ時、頼之ガ沙汰遅々ナリトテ、妙葩怒テ久ク丹州
蟄居セシカ。頼之出京ニヨリ、妙葩ハ帰京スルニヤ
同月、斯波義将ヲ管領トス　六月、妙葩ヲ南禅寺
ノ住持トス　七月、義満右大将ノ拝賀、山名民部義
幸侍所ノ当職ニテ、随兵百騎ヲツレテ先陣ニ供奉ス。

月卿雲客モ扈従ス　八月九條忠基関白ヲ辞ス。
二條師嗣關白トナル　九月義満御教書ヲ以テ頼
之入道常久ヲ誅セシムヘキ由ヲフレラル。然レトモ頼之
罪ナキユヘニヤ。赦免セラレ阿波淡路讃岐伊豫四國
ノ總管トシテ在國セリ
二年正月僧妙葩國師号ヲ蒙リ僧録司ニ任セラル。
僧録ト云コト是ヨリ始ル　同月義満従一位ニ叙ス
二月義満ノ弟満詮左馬頭ニ任ス。鎌倉ノ氏満左兵
衛督ニ任ス　五月關東ニテ小山下野守義政ト宇都
宮下野前司基綱ト合戰。基綱討死。氏満小山追討
ノタメニ上杉憲方ヲ遣ス　同月大内新介其弟三郎
ト勢州ニテ合戰ス。討ル者二百餘人　六月光明院

法皇崩ス。年六十　七月山名氏清南方ノ敵ヲ打破
テ。其張本民部大輔等十人ノ首ヲ京都ヘ献ズ
八月紀州南方ノ黨類多ク没落　九月小山義政
鎌倉ヘ帰伏ス　十二月春日ノ神木帰座関白大
臣公卿藤原氏供奉ス　今年義満鹿苑院并寶幢
寺ヲ建立。此比ノ事ニヤ。日本ノ僧如瑶ト云モノ。大明
ヘ渡リ。彼國ノ大臣胡惟庸ニ逢リ。胡惟庸逆心ア
リテ。大明ノ太祖ヲ弑シトタクミケルユヘ。如瑶ヲタノミ。
日本ノ加勢千人ヲ招テカクレヲキ。太祖ノ行幸ヲ
催ス。太祖許容シ。既ニ惟庸カ家ヘ行幸セントスルト
キ。訴人アリテ其事アラハレ。惟庸殺サレ。如瑶ヲ執
テ流罪ス。コレヨリ海上ニ番船ヲ置テ。日本人ヲミダリ

ニヨセズ

永徳元年三月。義満ノ館ヘ行幸　七月。二條前関白良基太政大臣ニ任ス。　今出川公直内大臣ヲ辞ス。源義満内大臣ニ任ス。年二十四。義満良基相睦ニテ。公家武家ノ政事ヲ相談ス。今年。南朝改元弘和。此時前朝ノ舊臣猶残リテ。新葉倭歌集ヲ撰セリ

二年正月。山名氏清河内ヲ攻テ。南方ノ軍ヲ破ル。此時楠正勝敗テ。赤坂ノ城モ落ヌ。和田モ戦負テ。和泉國氏清ニ取レヌ。紀州モ漸山名ニナビキヌ。千劔破城ハ猶残レリ。氏清ガ父時氏。スデニ因幡伯耆等数州ヲ領セリ。今氏清ガ一族彼此合テ十一箇國ノ守護ヲ兼タレバ。日本六十六分一ヲ領セリトテ。山名ガ家ヲ六分一殿ト云ナラハセリ　同月。義満左大臣ニ轉任ス。右大将元ノゴトシ。日ヲ歴テ左大将ニ轉ス。大納言藤原實時内府ニ任ス　閏正月。義満藏人所ノ別當ニ補セラル　三月。義満牛車ヲ聴サル　四月。主上位ヲ御子幹仁ニ讓ル　此代。初三年ハ。先代ノ應安ヲ用テ。其後ニ永和四年　康暦二年　永徳二年

在位合テ十一年

後小松院

百一代

諱幹仁。後圓融ノ長子ナリ。母ハ通陽門院藤原嚴子ト云。三條内大臣公忠ガ娘ナリ

永徳二年四月。六歳ニテ践祚。二條前関白太政大臣良基摂政。後圓融上皇院中ニテ政務沙汰セラル。

左大臣源義満院ノ執事別當ヲ兼ラル
同年十二月即位ノ禮行ハル本朝帝王即位ノ時
ハ高御座ノ中ニテ執柄ノ人傳授シ奉ルコトアリ近
代兵乱打ツヾキケル故其事シレル人スクナシ良基能
傳知ルユヘ光明崇光後光厳後圓融今上ニテ五代
ノ御師範タリ二條家コレヲ以テ榮トセリ良基廣才
ニテ著セル書多シ武家ニシタシキユヘニ家傳ノ外諸家
ノ舊記ヲモアマタ取アツメテ子孫ニ傳ヘタリ故ニ朝廷
ノ儀式武家ノ故實ヲモ多ク二條家ヨリ勘進セラ
ルヽトナン
三年正月踏歌ノ節會義満内弁ヲ勤ム同月義満
奨學淳和両院別當ヲ兼テ源氏ノ長者ニ補セラル

両院別當源氏長者ハ鳥羽院ノ勅ニテ代々久我ノ
家ニ補任セシヲ此ヨリ武家連綿シテ任ゼラル
六月義満准三宮宣下　十月義満ノ館ヘ行幸
十二月主上ノ外祖三條前内府公忠薨ズ今年義
満相國寺ヲ造営シ春屋妙葩ヲ開山トス然レドモ夢
窓ヲ推テ開山ニ用フ
至徳元年三月義満大将ヲ辞ス今年南朝改元元中
二年八月義満春日詣　今年秋前管領細川常久
阿波寶冠寺ヲ建テ僧絶海ヲ開山トス冬ニ及テ義
満絶海ヲ召テ等持寺ニ居シム
三年七月義満五山ノ座位ヲ定ム南禅寺ヲ五山
ノ上トシ住持義堂周信ニ公帖ヲ賜ズ天龍寺ヲ五

山第一トス。相國寺ハ第二。建仁寺ハ第三ナリ。東福寺ハ第四。萬壽寺ハ第五ナリ。鎌倉ノ五山ハ建長寺ヲ第一トス。天龍寺ノ次ナリ。圓覺寺ヲ第二トス。壽福寺ヲ第三トス。淨智寺ヲ第四トス。淨妙寺ヲ第五トス。コレヨリサキ。既ニ座位ノ沙汰アリト云トモ。此時決定セラレケルニヤ。五山ノ次ヲ十刹ト云。其座位ヲモ定ラル

嘉慶元年正月。主上十一歳。元服。攝政良基加冠タリ。義滿理髪タリ　同月良基攝政ヲ辭シ。太政大臣ヲ辭退ス　二月。近衛右府兼嗣攝政

三月近衛前關白道嗣薨ス。年五十五。兼嗣ノ父ナリ。

十二月從一位大納言源善成准大臣。是ハ源徳院ノ子孫ニテ博識ノ人ナリ。源氏物語河海抄ハ此人ノ作ナリ

二年三月。攝政兼嗣薨ス。年二十九　四月。二條良基又攝政。凡執柄當職四ケ度ナリ　五月。義滿左大臣ヲ辭ス。徳大寺内府實時左府ニ任ス。大納言源具通右府ニ任ス。一條大納言經嗣内府ニ任ス。經嗣ハ二條良基ノ子ナリシヲ。故一條前關白經通養テ。家ヲ續シム　六月。攝政良基薨ス。年六十九。後福光園院ト号ス。其子師嗣再關白ニ任ス　今年。義滿紀州ノ濱ニ遊ヒ。又富士山見物

康應元年七月。西園寺右府實俊薨ス。年五十六。是ハ建武ノ比。父大納言公宗逆心ニヨリテ。誅セラレシ時。

胎内ニアリシ子ナリ。後醍醐南山ヘ移テ。武家ノ代ト
ナリシユヘ。此人赦免セラレテ。其家ヲ續タリ　九月。義
滿高野參詣
明德元年四月。尊氏三十三回忌ノ追善義滿執行
セラル。法華八講アリ。四箇ノ大寺ノ貴僧高僧皆參
ル。義滿并ニ關白師嗣等ノ公卿著座殿上人出座義
滿モ自ラ布施ヲ引レケルトゾ。義滿出仕ノ時ハ。月卿
雲客庭ニ降テ蹲踞。各裝束嚴重ナリ。サレトモ義滿
ノ側ニハ。畠山將監父子三人。并ニ關口某太刀ヲ帶。金
鞭持テ相從リ。赤松門庭ヲ警固ス。八講ノ外。樣々ノ
法事アリ　今年。山名時熈同氏幸。武命ヲ背ク。山
名陸奥守氏清同播磨守滿幸ヲシテ討シム。氏清彼ハ
一族ノ内ナレハ。他日赦免アルヘクンハ。合戰ニ及ズ。教訓ヲ
加ヘシ。若誰人申ストモ。其罪赦免アルマジキナラバ。
誅伐スヘシト申ス。義滿其罪赦スヘカラズ。早ク退
治スヘシト命セラル。氏清發向シ。時熈氏幸沒落ス
二年。細川常久四國ヨリ召レテ上洛。義滿政道本ノ
如ク常久ニ任セラレ。細川右京大夫頼元ヲ。斯波義
將ニ代テ管領トス。頼元ハ常久弟ナガラ養子ナ
リ。或此時常久管領ニ再任ストモ云リ　十月。山名
氏清宇治ノ紅葉ヲ義滿ノ御覽ニ備ント請ケレハ。許
容アルニヨリテ。日ヲ定テ經營ス。其比時熈氏幸。潜ニ
上洛シ。罪ヲ謝シケレハ。義滿氏清ニ互談セントテ。宇治
ヘ赴ク。滿幸此ヲ知テ。氏清ニ告ク。氏清既ニ和泉ヨリ

定テ来ケルガ其日ニ及テ俄ニ病ト称ジテ宇治ヘ赴カ
ズ。義満不悦シテ空ク皈ル　十一月満幸仙洞ノ御領ヲ
妨ルニヨリテ出雲ノ守護職ヲ止ラレテ洛中ニ置レズ
丹波ヘ追下サル。満幸怒テ和泉ヘ赴テ氏清ニ謀叛ヲ
スヽム。氏清元来逆心アル上満幸ハ甥ナカラ婿ナリ。又
此時時熙氏幸ステニ赦免セラレテ本領安堵シケレバ
氏清カタ〴〵不安思テ遂ニ謀叛ス　十二月二十九
日氏清満幸和泉丹波ヨリ相分テ京ヘ攻入ル。義満
常久等諸大名ヲシテ此ヲ拒シム。晦日内野并ニ
洛中所々ニテ合戦。氏清カ弟義数并ニ家老小林ハ
大内義弘ト戦テ討レヌ。満幸ハ常久并ニ畠山基国
ト戦テ敗軍ス。氏清ハ京中ヘ乱入ス。大内義弘赤松

義則山名時熙等ト戦テ氏清勝ニ乗シカバ義満自
旗ヲ進ラル。一色詮範斯波義重先陣タリ。氏清敗軍
ス。詮範其子満範ト相共ニ氏清ト戦テ氏清ヲ討
殺ス。歳四十八。満幸ハ逃去
三年正月氏清満幸カ舊領ヲ分テ丹波ヲ細川頼
元ニ給リ。丹後ヲ一色満範ニ美作ヲ赤松義則ニ和
泉紀伊ヲ大内義弘ニ出雲隠岐ヲ佐々木高明ニ但
馬ヲ山名時熙ニ伯耆ヲ山名氏幸ニ給フ。又若狭今
富庄ヲ一色詮範ニ給リ。山城國内ノ領地ヲバ畠山基
國ニ給ル。氏清カ兄義理ハ紀伊ニアリシガ大内義弘發
向シ攻ケレバ義理城ヲ去遂電ス。又此比畠山河内國
ヲ領シテ千劔破城ヲ攻落ス。楠正勝十津河ノ邊ニ流

涙ス。其弟正元ハ。潜ニ京ヘ入テ。義満ヲ子ラヒケレドモ。
事アラハレテ殺サル。カヽリケレバ。南方モ弥衰テ。和泉
河内ノ和田楠ガ一族。畠山大内ガ家人トナル者多シ。
二月。武藏守頼之入道常久卒ス。歳六十四。永泰
院ト号ス。葬禮ノ時義満自是ヲ送ラル　四月。公
家武家并諸寺諸社ノ沙汰アリテ。賞罰ヲ総ス
八月。相國寺供養。義満執行セラル。月卿雲客扈従
ス。管領細川頼元。侍所畠山基國以下。武士ノ行粧
嚴重ナリ。御齋會ニ准セラル。住持明應導師タリ。五
山十刹皆出仕。他宗門跡等モ出座　十月。大内ノ
義弘。和泉國ニ居テ。義満ノ命ヲ受。南方ト和睦ノ義
ヲツクロヒ。　閏十月二日。南帝熙成王入洛。嵯峨ノ

大覺寺ニ到著。其儀式行幸ノ如シ　同五日。南帝
三種ノ神器ヲ禁中ヘ渡サル。熙成王ハ太上天皇ノ尊
號ヲ蒙テ。後亀山院ト号ス。延元二年。後醍醐天皇
吉野ヘ入給シヨリ。此ニ至テ五十六年ニシテ。南北洽テ
一統ス。然レドモ。南方ノ餘類。少々猶吉野ノ奥ニ殘ケ
ルモアリトナン　十二月。義満左大臣ニ再任ス。徳大寺ノ
實時左府ヲ辞スルニヨリテ也　今年。朝鮮ノ使者
来テ。鄰好ヲ修センコトヲ請。義満許容ス
四年四月。後圓融上皇崩ス。歳三十六。泉涌寺ニテ
葬禮。義満モ送タテマツラル　八月。石清水放生
會。義満参詣　九月。義満左大臣ヲ辞シテ。伊勢太神
宮ヘ参詣　同年。斯波義將再管領ニ任ス

應永元年三月源具通右大臣ヲ辞ス今出河前内府公直右大臣ニ任ズ　六月一條内府經嗣左大臣ニ任ス徳大寺前左府實時太政大臣ニ任ス准大臣源善成内府ニ任ス　九月義満日吉参詣　十一月二條師嗣関白ヲ辞ス一條經嗣關白トナル

十二月十七日義満ノ嫡子義持九歳ニテ元服正五位下ニ叙シ左中將ニ任シ禁色昇殿ヲ聽サル義満征夷大將軍ヲ義持ニ讓ル凡叙爵ハ攝家ハ正五位下其外ハ清華トイヘトモ從五位下ナリ今義持ノ叙爵攝家ニ准ズ　同月徳大寺實時太政大臣ヲ辞ス

二十五日義満太政大臣ニ任ス歳三十七同日今出河公直右大臣ヲ辞シテ其子大納言實直ニ讓ル源善成内府ヲ辞シテ花山院大納言通定内府ニ任ス或説ニハ平ノ清盛ガ外ハ武家相國ニ任スル例ナケレバ義満昇進如何ト公家ヨリ申サレケレハ義満怒テ公家ノ領地ヲ押ヘントス又自國王トナリテ細川畠山等ヲ攝家清華ニ准ゼントス朝庭大ニ畏テ許容アリト云リ

二年正月白馬節會義満内辨ヲツトム　三月今出河實直右府ヲ辞ス花山院通定此ニ代ル洞院公定内府ニ任ス　四月義満館ヘ行幸　同月関白經嗣左府ヲ辞ス今出河前右府公直左府ニ任ス

六月義満太政大臣ヲ辞ス久我前右府源具通太政大臣ニ任ス今出河公直左府ヲ辞ス花山院通

定右府ヲ辞ス　同月義満落飾ス歳三十八道号ハ
天山法名ハ道義ト云　七月前内府源義成左府
ニ任ス公定内府ヲ辞ス　八月義成官ヲ辞シテ
剃髪ス　九月公定右府ニ任ス二條大納言藤原公
豊内府ニ任ス　十二月三條大納言實冬内府ニ任ス
今年山名満幸誅セラル
三年二月源具通太政大臣ヲ辞ス　四月源義持
正四位下ニ叙ス　七月洞院右府公定左府ニ任ス
三條實冬内府ヲ辞ス大納言藤原嗣房内府ニ任ス
九月義持参議ニ任ス　同月源道義叡山ニ登ル其儀
式御幸ニ准セラル武家ヲ公方ト称スルハ此比ヨリノ
事ナルヘシ道義参内ノ時禁中ニ便宜所アレハコレヲ

小御所ト云リ出入ノ時伺候ノ月卿雲客皆庭ニ下
テ蹲踞ス其内武家ニシタシキヲ昵近衆ト云
同年今川了俊九州ヨリ帰ル始メ尊氏ノ時了俊ガ父
國範駿河遠江ヲ領セリ駿河ヲ長子範氏ニ譲リ遠
江ヲ了俊ニ譲ル範氏死シテ其子泰範ト了俊ト
不和ナリ了俊久ク筑紫ニアリテ其子ハ遠江ニアリ
泰範ヨリ〳〵了俊ガ事ヲ讒シケリ其上大内義弘九
州ニ探題ヲ望テ了俊筑紫ニアレトモ其子遠州ニ
居ル故鎌倉ノ氏満ト志ヲ通スル由ヲ申ス又管領斯
波義将勘解由小路ト号ス其一族澁河ヲ探題ニナサントノ志
アリテ彼是ニテ了俊探題ヲ止ラレテ帰洛ス此以後
ハ筑紫中國ノ事義弘ハカラヒ申ケリ了俊ハ遅参ノ

トガメニアフテ遠江ノ本領ヲモハナレ蟄居シケルトナン
四年正月義持従一位ニ叙シ　三月中納言ニ任ス
四月道義北山ノ別業ニ新ニ館ヲ構テ移居ス室町ノ
館ヲバ義持ニ譲ル道義ヲ北山殿ト号ス此所ハ西
園寺ノ領ナリシヲ道義取テ居所トス其經營華麗
ナル故世人金閣ト云大樹ヲ義持ニ譲ルトイヘトモ政務ハ
皆道義沙汰セラル　同月道義春日参詣
八月遣唐使ヲ立ラル　十二月九條前関白忠基薨
ス歳五十三　今年筑紫ニテ小貳菊池千葉大村野
心ヲサシハサム大内義弘ヲシテ平シム或説ニハ義弘
軍功ニ誇テ驕ケル故道義咎ニ小貳菊池ニ命シテ
義弘ヲハカラハシムルト云リ然レトモ義弘勝利ヲ得ス
ヘカハルコトナシ義弘カ逆謀コレヨリキザス
五年正月義持正三位ニ叙ス　同月崇光院崩ス
年六十五　三月二一條前関白師嗣子道忠名ヲ満
基ト改ム満ノ字ハ道義ヨリ授ラル二一條家ニテ武家
ノ諱ノ字ヲウクル事此ヨリ始ル　四月一條經嗣関
白ヲ辞ス二條師嗣又関白トナル　八月朝鮮使
者朴敦之来朝ス大内義弘是ヲ接待ス道義吝ヲ贈
ラル　十一月鎌倉管領源氏満卒ス永安寺ト号
ス年四十二其子満兼相續ス上杉朝宗家老タリ
満兼カ弟満直ハ奥州ノ管領タリ篠河殿ト号ス
同月道義畠山基國ヲ管領トス此ヨリ以後斯波細
川畠山カハルカハル管領トナル此ヲ三管領ト云又山名

赤松一色京極ガハル〲侍所ヲ預ル此ヲ四職ト云其副ヲ所司代ト云京極ハ佐々木ノ一流道譽ガ末ナリ關東ニモ此ヲニセテ鎌倉ノ管領ヲハ私ニ將軍ト云御所ト稱シテ其家老上杉ヲ管領ト稱シ千葉小山長沼結城佐竹小田宇都宮那須ヲ八家ト稱ス是ハ皆頼朝ノ時ヨリ名アル家ナリ

六年二月三條右府實冬左府ニ轉ス九條内府教嗣右府ニ任ス近衛大納言良嗣内府ニ任ス
四月二條関白師嗣落飾歳四十七二條經嗣又関白ニ任ス　九月相國寺七重大塔供養　十月大内左京大夫義弘筑紫中國ノ兵ヲヒキヒテ和泉ノ堺ニ著テ上洛セス却テ関東ヘ通シ謀叛ノ企アリケレ道義試ニ僧絶海ヲ使者トシテ此ヲナダメサトサルヽトイヘ𪜈同心セズ　十一月道義自八幡ニ出テ管領畠山基國前管領斯波義將細川頼元等ヲ和泉ヘ發向セシム義弘城ヲ構テ拒戰　十二月京勢和泉ノ城ヲ攻テ火ヲ放ツ義弘馳テ基國ガ陣ヘカケ入基國ガ子滿家ト戰テ義弘討レス其子新介降参ス泉堺ノ在家一萬間燒亡

七年正月義持從二位ニ叙　三月足利直冬石見國ニテ卒ス　五月九條前關白經教薨ス歳六十九

八年二月内裏炎上道義北山第ニ行幸　三月義持大納言ニ任ス時ニ十六歳　五月日吉社法華八講道義義持并ニ門跡公卿參詣　今年道義書

簡ヲ大明ノ皇帝ニ贈リ黄金千両及ビ器物若干ヲ遣
九年正月義持正三位ニ叙ス　二月大明ノ建文帝書
簡ヲ道義ニ寄ラル其書中ニ日本國王道義ト云リ
八月道義兵庫ニ遊フ　同月三條ノ左府實冬ヲ太政
大臣ニ任ス近衛内府良嗣左大臣ニ轉シテ出河ノ大納
言公行内府ニ任ス　九月道義北山ノ館ニテ大明ノ使
僧道彝一如ニ對面明朝ヨリ錦綺并ニ暦ヲ贈ル
十一月義持従一位ニ叙ス内裏ヲ造ル賞也
十年三月義持石清水参詣　八月九條ノ教嗣右府
ヲ辞ス内府公行右府ニ轉シ二條ノ大納言満基内府
ニ任ス　十一月大明ノ成祖皇帝書簡ヲ道義ニ寄テ
其即位ヲ告ラル　十二月三日中納言源満詮大

納言ニ任シ従一位ニ叙シテ即剃髪ス此ハ道義ノ弟也
十一年五月大明ノ使者来ル道義北山ニテ對面
八月九條前右府教嗣大和ノ内山ニテ薨ス
十二年斯波ノ義重管領ニ任ス　同年上杉右京亮
憲定鎌倉ノ執事トナル
十三年八月義持右大将ヲ兼ヌ此年壹岐對馬ノ
海賊大明ノ邉鄙ヲ侵ス大明ノ成祖皇帝ヨリ道義ヲ
タノミコレヲシヅメラル道義其張本ヲ捕ヘテ平グ成祖
ヨリ勅書并ニ様々ノ音物来ル
十四年正月義持馬寮御監トナル　二月三條ノ太政
大臣實冬剃髪
十五年三月四日道義最愛ノ末子義嗣叙爵

同月八日。北山ヘ行幸。關白經嗣以下扈從。道義法服ヲ着シ。數珠ヲ持。義嗣ヲ携テ。門下ニ出テ行幸ヲ迎フ。十餘日御止宿。管絃倭歌ノ遊アリ。其會ノ座次。御製ノ次ニ沙門道義。其次ニ源義嗣。其次ハ關白藤原經嗣以下ナリ。義嗣左馬頭ニ任ズ。正五位下ニ叙シ。又從四位下ニ叙シ。左中將ニ任ス。此度義持ハ京ニ留テ北山ヘ赴カズ。道義驕ノ餘義持ヲ疏ジ。義嗣ヲ愛シ。行幸ヲ催シ。關白ノ上ニ直テ。其威名ヲ重セント爲ナルヘシ

四月。經嗣關白ヲ辞ス。近衛左府良嗣關白ニ任シ。名ヲ忠嗣ト改ム。義嗣ヲ避ルナルヘシ

同月。義嗣内裏ニテ元服。其儀式ハ親王ニ准ズ。参議ニ任ス。從三位ニ叙ス。中將元ノ如シ。時ニ十五歳

五月六日。前征夷大將軍太政大臣從一位准三宮源ノ義滿法名道義。北山館ニテ薨ス。歳五十一。鹿苑院殿ト号ス。天山ト称ス。勅シテ太上天皇ノ尊号ヲ贈ラル。義持辞シテ受ズ。應安元年ヨリ。應永元年ニ至テ。在職二十七年。義持ニ譲テ後十四年。合治世四十一年。道義遺跡誰ニト申置カル、上目ナシ。義嗣ノ寵愛義持ニコヘタレバ。此ヘトヤ思レケン。サレトモ義持ステニ家督タルウヘ。管領斯波義將入道勢カツヨク。義持ヲ輔佐セリ

十一月。源義持諸國關所ノ事ヲ沙汰ス。管領斯波右兵衛督義重押判。飯尾常廉奉行ス。義重ハ義將カ子ナリ

十二月。大明成祖皇帝。書ヲ義持ニ贈リ。義滿ヲ吊ヒ。祭文ヲ作リ。恭献王ト謚ス

十六年二月。近衛ノ忠嗣。関白ヲ辞ス　三月。二條ノ内府満基関白ニ任シ。左府ニ轉ス　同月。朝鮮ノ使者来ル　六日。義持石清水ニ詣テ。伊勢太神宮ヘ参ラル　前ノ管領斯波ノ義将。大樹ノ命ヲウケテ。返翰ヲ朝鮮ノ執政ニ遣シ。先代ニカハラス。隣好ヲ修ス。義将私ニ朝鮮板ノ一切經ヲ求ム　七月。義持内大臣ニ任ス。年二十四。同月。鎌倉ノ管領源ノ満兼卒ス。年三十四。二勝光院ト号ス。其子持氏相續。上杉憲定コレヲ輔佐ス。上杉朝宗ハ。満兼ヲ慕テ。葬所ヨリ直ニ世ヲ遁テ。閑居ス。時歳七十ナリ　十月。義持三條坊門ノ館ニ移ル　十一月。義持八幡ニ參籠　十七日。斯波義淳。其父義重ニ代テ管領トナル

十七年正月。源ノ義嗣中納言ニ任ス　四月。義持高野参詣　同月。二條ノ関白満基ノ子基教。名ヲ持基ト改ム。先例ニヨリ。義持ノ諱ノ字ヲ授ラル　六月。畠山満家管領ニ任ス　十二月。関白満基薨ス。一條ノ経嗣又関白ニ任ス

十八年四月。今出川ノ右府公行。左府ニ任ス。鷹司ノ大納言冬家右府ニ任ス　九月。源ノ高貞ヲシテ。飛騨ノ國司藤原ノ尹綱ヲ討シム　十二月。義嗣大納言ニ任ス　同月。鎌倉ノ上杉安房ノ守憲定死ス。其再従弟右衛門ノ佐氏憲コレニ代テ。持氏ノ家老トナル。氏憲ハ朝房ガ子ニテ。朝宗ガ姪ナリ。氏憲剃髪シテ。名ヲ禅秀ト改ム。犬懸入道ト号ス。憲定ガ子憲基ト不和ナリ。上

杦ハ藤原姓ニテ勸修寺ノ庶流ナリ。上杦重房ト云モノ宗尊親王ノ供奉ニシテ鎌倉ヘ下シヨリ。關東ニ住セリ。其子ヲ頼重ト云頼重ガ娘清子ハ尊氏直義ノ母ナリ。清子ノ兄弟ヲ憲房重顕ト云憲房ガ子民部ノ太輔憲顕ハ憲定憲基ガ祖ナリ。是ヲ山ノ内ト云テ上杦一家ノ棟梁ナリ。憲顕ガ弟彈正ノ少弼憲藤ハ禪秀ガ祖ナリ重顕ガ子孫ヲハ扇谷ノ上杦ト云其外相分テ越後ニ居ルモノアリ。上野ノ白井ニ住スルモアリ又京鎌倉往來スルモノモアリ。基氏ヨリ氏滿滿兼持氏ニ至ルニテ上杦輔佐ノ勢ヲカリテ威ヲ關東ニ振ヘリ

十九年五月義持大將ヲ辭ス　八月主上位ヲ躬仁親王ニ譲ル　年号即位ノ初永徳ヲ不改コト一年其次ニ至徳三年　嘉慶二年　康應一年明徳四年　應永十九年　合テ在位三十年

百二代

稱光院　諱躬仁後ニ實仁ト改ム後小松院ノ子ナリ。母ハ光範門院日野ノ贈左大臣藤原ノ資國カ娘ナリ。應永十九年八月受禪年十二。一條經教關白タリ。後小松上皇院中ニテ政務ヲキヽタマフ。將軍源ノ義持院ノ執事ニ任シ。兵仗宣下セラル　十月義持淳和獎學兩院別當源氏ノ長者ニ補セラル。細川右京ノ大夫滿元管領ニ任ス

二十年六月義持八幡參詣月卿雲客扈從

二十一年十二月。即位ノ禮行ハル　同月。九條ノ大納言滿教右府ニ任ス
二十二年七月。義持月吉参詣　八月春日参詣。廣橋ノ大納言兼宣。并ニ雲客數輩扈從　九月。八幡参籠
二十三年十月。大納言源義嗣。野心ヲサシハサム事アラハレ。剃髪シテ逃亡　今年。鎌倉ノ上杉禪秀其職ヲ辭ス
持氏山内ノ上杉安房ノ守憲基ヲシテ。禪秀ニ代テ事ヲ行ハシム　十月。禪秀謀叛。持氏ノ叔父滿隆ト。持氏ノ弟持仲トヲ取立テ。持氏憲基ヲ攻テ合戰ス。持氏敗テ駿河ヘ逃来テ。今川泰範ヲタノミ。京都ヘ訴フ。憲基ハ越後ヘ逃行テ兵ヲアツム。禪秀權ヲ振テ。持仲ヲ鎌倉ノ主トス。禪秀乱トハ是ナリ。義持援兵ヲ發セシム。

二十四年正月。持氏京都ノ加勢ヲ得テ。憲基ト牒シ合テ。鎌倉ヲ攻破ル。禪秀戰敗テ自害ス。滿隆持仲モ自害ス。其黨類皆亡ス。持氏鎌倉ヘ歸座シ。憲基執事タルコトモトノコトシ。持氏ノ持ノ字ハ。義持ヨリ授ラルヽヨシミアルニヨリテ。義持ト持氏トハ相睦シ
十二月。義持ノ嫡男義量十一歳ニテ元服ス。義持加冠タリ。正五位下ニ叙シ。右中將ニ任ス。即昇殿参内ス
二十五年正月。前ノ大納言源義嗣相國寺ノ林光院ニテ害セラル。年二十五。圓修院ト号ス　五月。前ノ大納言源滿詮卒ス。義持ノ叔父ナリ。左大臣ヲ贈ラル
十一月。一條關白經嗣薨ス。歳六十一。成恩寺ト号ス。
十二月。今出川ノ公行左府ヲ辭ス。九條ノ右府滿教左

府ニ轉ス關白トナル德大寺ノ大納言公俊右府ニ任ス
二十六年二月上丁釋奠行ル文武天皇大寶年中
ヨリ此比マデ猶ヲコタルコトナシ　七月大明ノ使者
呂淵來ル　九月關白滿教左府ヲ辭ス將軍義持
內府ヲ辭ス　十二月右府公俊左ニ轉ス二條大納
言持基右府ニ任ス西園寺ノ大納言實永內府ニ任ス
二十七年正月德大寺ノ左府公俊太政大臣ニ任ス
二條ノ右府持基左府ニ任ス西園寺ノ內府實永右府
ニ任ス三條ノ大納言公光內府ニ任ス公光左大將ヲ
兼ス一條ノ大納言兼良右大將ヲ兼ラル兼良ハ經嗣ノ
子今歲十九　三月公俊太政大臣ヲ辭ス
九月義持不例伊勢并諸社ヘ奉幣太山府君ノ祭リ

行ル後經朝臣并醫師高天讃岐國ヘ流サル陰陽助
定棟カ召捕レテ禁獄セラル此等ヨク祈ラツカフテ義持ヲ
ノロフ由風聞スルユヘナリ　十月義持病氣平復
同月廣橋ノ大納言兼宣裏松參議義資日野ノ參議有
光勸修寺ノ左中辨經興等室町殿ヘ參候皆故ナク逼
籠ラレテ蟄居年月ヲ歷テ赦免セラル　十二月西
園寺ノ實永右府ヲ辭ス三條ノ公光右府ニ轉ス大炊御門ノ
大納言宗氏內府ニ任ス
二十八年正月元日義持參內院參　同月鎌倉ノ左
兵衛督持氏使者木戶駿河ノ守上洛ス持氏三位昇
進ヲ謝ス義持不例快復ヲ賀ス　四月大炊御門
內府宗氏薨ス　七月一條ノ大納言兼良內府ニ任ス

同月細川右京大夫満元管領ヲ辞ス　八月畠山
左衛門督満家入道道端管領ニ再任ス
二十九年正月義持青蓮院門跡義圓ノ坊ヘ赴ク義
圓ハ義持ノ弟ナリ此比天台座主ニテ大僧正ニ任レ准后
ノ宣旨ヲ蒙レリ義満以来世上無為洛中静ナルユヘ
義持所々遊覧管領畠山満家斯波右兵衛督義
淳細川右京大夫満元并ニ諸大名ノ宅ヘモ赴テ遊慰
セラル摂家門跡并ニ西園寺柳原日野等ノ家ヘモ渡御
アリ是ヲ御成ト云リ　四月義持院参猿樂アリ
五月義持等持寺ニテ鹿苑院ノ年忌ヲ修ス法華八
講アリ関白九條満教等公卿雲客出座　八月義
持ノ御臺伊勢参宮　九月後小松上皇八幡参

詣義持扈従　同月義持伊勢参宮　十一月義量
初テ八幡参詣公家武家皆賀ス　十二月義持等
持寺ニテ寶篋院ノ年忌ヲ修シ法華八講アリ公
卿并雲客出座四箇大寺皆参ル
三十年二月義持征夷大將軍ヲ義量ニ譲ル時十七
歳　三月義持并御臺伊勢参宮　四月義持等持
寺ニテ落飾法名道詮道号ハ顕山時ニ三十八歳
七月朝鮮ヨリ使僧来テ一切經ヲ贈ル　八月二條
公光右府ニ任ス
三十一年正月義量従四位下ニ叙ス　二月義持鎌
倉持氏ト不快ノ事アリシガ和睦セラル　四月南帝
後亀山院嵯峨ニテ崩ス　十月義量参議ニ任ス

同月後小松上皇相國寺御幸。義量扈從セラル義持ステニ治世ヲ義量ニ譲テ。管領畠山満家輔佐ス。義持ハ洛邊處々遊覧　今年九條満教。関白ヲ辞シテ。二条左府持基關白ニ任シ。一條内府兼良右府ニ任ス。洞院大納言満季。内府ニ任ス

三十二年正月。義量正四位下ニ叙ス　二月十六日。上皇ノ二ノ宮薨　同月二十七日。征夷大將軍参議中將源義量逝去。年十九長得院ト号ス。在職ワツカニ三年　四月。義量近習ノ士。義持ニ謁ス。管領畠山満家并ニ伊勢因幡入道照心。申次之伊勢守ハ平氏ノ餘流ナリ。室町家代々ノ近習ニテ。営中ノ事ヲ奉行スル者也　同月。後圓融院二十三回忌。仙洞ニテ法華八講ヲ修セラル

三十三年八月。洞院満秀。内府ヲ辞ス。近衛大納言房嗣内府ニ任ス

三十四年十月。赤松左京太夫満祐。赤松越後守持貞ト。所領相論ス。尊氏ノ時ヨリ。赤松一族。摂津播磨備前美作因幡五箇國ヲ領セリ。満祐ハ則祐ガ嫡孫ナリ。持貞ハ則祐ガ兄貞範ガ孫ナレトモ。嫡孫ニハアラズシテ。庶流ナリ。然レトモ義持ノ寵臣タルユヘニ。五箇國ノ内三箇國ヲ持貞ニ賜ル。満祐憤テ。京都ノ己ガ館ニ火ヲ放テ。播磨ヘ下ル。義持怒テ。細川持元。山名満熈ヲシテ満祐ヲ討シム。然レトモ持貞驕奢無礼ノ者ナルユヘ。諸大名皆コレヲ悪デ。満祐ト相談シ。持貞ガ悪ヲ

訴ヘケレハ　十二月持貞自害ス。満祐ハ赦免セラレテ
帰洛
正長元年正月十八日。前征夷大将軍従一位内大
臣源義持薨ス。年四十三。太政大臣ヲ贈ラル。勝定院
ト号ス。応永六年ヨリ将軍ニ任シ。同十五年ヨリ治
世今年マテ二十一年ニ及リ。義量早世ニヨリテ。継
嗣ナシ。鎌倉ノ持氏上洛ノ志アレトモ。ソレモカナハス。義
持ノ弟。義嗣ノ外ニ。一人ハ仁和寺御室法尊。一人ハ青
蓮院准后義圓。一人ハ梶井門跡義承。一人ハ大覚寺
門跡義昭ト云。義持病中ニ。管領畠山左衛門督満
家入道道端石清水八幡宮ニテ。鬮ヲ取テ。青蓮院
殿ヲ。義持ノ継嗣ニ定ム　三月十二日。青蓮院門跡

義圓還俗シテ。室町殿ヘ入ラル。義宣ト号ス。同日従五位
下ニ叙シテ。左馬頭ニ任セラル。時ニ三十五歳ナリ
同月。准大臣日野資国薨ス。主上ノ外祖ナリ
四月。武家評定始。判始。乗馬始等アリ。義宣従四位
下ニ叙ス　同月。日野儀同三司資教薨ス。年七十
三。資国カ兄弟ナリ　五月。鷹司前右府冬家薨ス
六月。徳大寺前相国公俊薨ス。年五十八。七月二十
日。主上崩ス。年二十七。此代即位ノ後改元ナシ。応
永二十年ヨリ。三十四年マテ。十五年。正長一年ヲ加
テ。合テ在位十六年。此帝魔法ヲ修シ常ニ潔斎
セラルヽニヨリテ。皇嗣ナシト云傳タリ

日本王代一覧巻之六終